

# 有価証券報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した有価証券報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

株式会社KADOKAWA

(E00729)

# 目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	10
第2 【事業の状況】	11
1 【業績等の概要】	11
2 【生産、受注及び販売の状況】	12
3 【対処すべき課題】	13
4 【事業等のリスク】	13
5 【経営上の重要な契約等】	16
6 【研究開発活動】	16
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	16
第3 【設備の状況】	18
1 【設備投資等の概要】	18
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	19
第4 【提出会社の状況】	20
1 【株式等の状況】	20
(1) 【株式の総数等】	20
① 【株式の総数】	20
② 【発行済株式】	20
(2) 【新株予約権等の状況】	21
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	24
(4) 【ライツプランの内容】	24
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	24
(6) 【所有者別状況】	24
(7) 【大株主の状況】	25
(8) 【議決権の状況】	25
① 【発行済株式】	25
② 【自己株式等】	26
(9) 【ストックオプション制度の内容】	26

2	【自己株式の取得等の状況】	26
	【株式の種類等】	26
	(1) 【株主総会決議による取得の状況】	26
	(2) 【取締役会決議による取得の状況】	26
	(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】	26
	(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】	26
3	【配当政策】	27
4	【株価の推移】	27
	(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】	27
	(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】	27
5	【役員の状況】	28
6	【コーポレート・ガバナンスの状況等】	34
	(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】	34
	(2) 【監査報酬の内容等】	41
	① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】	41
	② 【その他重要な報酬の内容】	41
	③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】	41
	④ 【監査報酬の決定方針】	41
第5	【経理の状況】	42
1	【連結財務諸表等】	43
	(1) 【連結財務諸表】	43
	① 【連結貸借対照表】	43
	② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】	45
	【連結損益計算書】	45
	【連結包括利益計算書】	47
	③ 【連結株主資本等変動計算書】	48
	④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】	50
	【注記事項】	52
	【セグメント情報】	67
	【関連情報】	67
	【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】	68
	【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】	68
	【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】	68
	【関連当事者情報】	68
	⑤ 【連結附属明細表】	71
	【社債明細表】	71
	【借入金等明細表】	72
	【資産除去債務明細表】	72
	(2) 【その他】	72

2	【財務諸表等】	73
(1)	【財務諸表】	73
①	【貸借対照表】	73
②	【損益計算書】	75
③	【株主資本等変動計算書】	76
	【注記事項】	78
④	【附属明細表】	83
	【有価証券明細表】	83
	【株式】	83
	【その他】	83
	【有形固定資産等明細表】	83
	【引当金明細表】	84
(2)	【主な資産及び負債の内容】	84
(3)	【その他】	85
第6	【提出会社の株式事務の概要】	86
第7	【提出会社の参考情報】	87
1	【提出会社の親会社等の情報】	87
2	【その他の参考情報】	87
第二部	【提出会社の保証会社等の情報】	88
監査報告書		巻末

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月25日
【事業年度】	第59期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	株式会社KADOKAWA （旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）
【英訳名】	KADOKAWA CORPORATION （旧英訳名 KADOKAWA GROUP HOLDINGS, INC.） （注）平成25年6月22日開催の第59期定時株主総会決議により、同日から会社名及び英訳名を上記のとおり変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 辰男
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見二丁目13番3号
【電話番号】	03（3238）8401（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経営統括本部副統括本部長 渡辺 彰
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区富士見二丁目13番3号
【電話番号】	03（3238）8561
【事務連絡者氏名】	取締役経営統括本部副統括本部長 渡辺 彰
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高（百万円）	141,611	135,922	140,055	147,392	161,602
経常利益（百万円）	4,062	5,375	8,572	5,905	8,661
当期純利益又は当期純損失 （△）（百万円）	△5,205	1,429	6,367	3,604	5,040
包括利益（百万円）	—	—	6,713	2,980	11,317
純資産額（百万円）	67,510	67,461	73,150	77,050	87,545
総資産額（百万円）	123,176	119,252	121,951	128,751	139,898
1株当たり純資産額（円）	2,649.06	2,645.78	2,881.46	2,945.20	3,339.17
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失（△） （円）	△203.94	56.68	252.65	140.03	194.72
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益（円）	—	54.58	221.33	124.18	171.03
自己資本比率（％）	54.2	56.0	59.4	59.2	61.8
自己資本利益率（％）	—	2.1	9.1	4.8	6.2
株価収益率（倍）	—	37.31	7.53	18.81	13.26
営業活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	△36	1,990	5,642	△184	10,335
投資活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	167	△980	337	△14,088	△4,061
財務活動によるキャッシュ・ フロー（百万円）	△2,193	△5,593	△1,293	580	△787
現金及び現金同等物の 期末残高（百万円）	26,577	21,747	26,007	11,934	17,876
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] （人）	2,313 [1,539]	2,523 [1,557]	2,643 [1,386]	2,722 [1,286]	2,855 [477]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 平成21年3月期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	4,496	3,960	3,975	6,718	5,719
経常利益 (百万円)	1,572	1,320	1,010	2,949	971
当期純利益又は当期純損失 (△) (百万円)	△9,749	699	△591	2,747	677
資本金 (百万円)	26,330	26,330	26,330	26,330	26,330
発行済株式総数 (千株)	27,260	27,260	27,260	27,260	27,260
純資産額 (百万円)	62,074	61,621	61,436	64,816	69,708
総資産額 (百万円)	91,985	91,529	90,824	95,705	106,976
1株当たり純資産額 (円)	2,460.07	2,442.12	2,442.45	2,504.19	2,693.17
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	30.00 (-)	30.00 (-)	35.00 (-)	35.00 (-)	45.00 (-)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 (△) (円)	△381.86	27.71	△23.46	106.77	26.18
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	27.25	-	95.32	25.35
自己資本比率 (%)	67.5	67.3	67.6	67.7	65.2
自己資本利益率 (%)	-	1.1	-	4.4	1.0
株価収益率 (倍)	-	76.31	-	24.67	98.61
配当性向 (%)	-	108.3	-	32.8	171.9
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	46 [-]	46 [-]	45 [-]	48 [-]	53 [-]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 平成25年3月期における1株当たり配当額には、記念配当10円を含んでおります。

3. 平成21年3月期及び平成23年3月期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、それぞれ潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【沿革】

年月	事項
昭和20年11月	当社の前身である角川書店創業。
昭和29年4月	出版業並びに図書及び定期刊行物の販売を目的として資本金3,850千円にて、東京都千代田区富士見二丁目7番地に㈱角川書店を設立。
昭和33年9月	文庫及び単行本の改装と在庫管理を目的として、東京都町田市に鶴川分室を設置。
昭和47年12月	㈱富士見書房を設立し、当社発刊の教科書の自習書の発刊・販売を開始。
昭和49年10月	埼玉県入間郡三芳町に物流センターを設置。
昭和59年10月	本社を東京都新宿区揚場町4番地に移転。
昭和63年6月	本社を東京都文京区本郷五丁目24番5号に新築移転。
平成元年4月	㈱角川春樹事務所(旧)を吸収合併。
平成3年3月	㈱富士見書房を吸収合併し、富士見事業部を設置。
平成4年2月	㈱角川興産を吸収合併。
平成5年3月	㈱ザテレビジョン、㈱角川春樹事務所(新)及び㈱角川メディア・オフィスを吸収合併し、雑誌事業部、ソフト事業部を設置。
平成6年12月	㈱角川書店流通センターを吸収合併。
平成7年10月	本社を東京都千代田区富士見二丁目13番3号に新築移転。
平成10年11月	東京証券取引所市場第二部に株式上場。
平成11年4月	台湾国際角川書店股份有限公司を設立。(現 連結子会社)
平成13年8月	㈱エス・エス・コミュニケーションズの株式を取得。
平成14年10月	㈱メディアワークスと株式交換。(現 連結子会社)
平成14年11月	連結子会社㈱角川大映映画が、大映㈱の営業の全部を譲り受け。
平成15年4月	持株会社方式による分社型新設分割を実施し、新設子会社㈱角川書店に営業の一切を承継させ、同時に商号を㈱角川ホールディングスに変更。
平成16年3月	㈱エンターブレイン(現 連結子会社)及び㈱アスキーの親会社である㈱メディアリーヴスの株式を取得。
平成16年3月	日本ヘラルド映画㈱の株式を取得。
平成16年3月	KADOKAWA ENTERTAINMENT U.S. INC. を設立。(現 連結子会社)
平成16年9月	東京証券取引所市場第一部に株式指定。
平成17年3月	日本ヘラルド映画㈱を影響力基準により子会社化。
平成17年4月	KADOKAWA HOLDINGS CHINA LTD. 及びKADOKAWA HONG KONG LTD. を設立。(現 連結子会社)
平成17年8月	日本ヘラルド映画㈱と株式交換。
平成17年10月	連結子会社㈱角川書店の会社分割により、㈱富士見書房を設立。(現 連結子会社)
平成17年11月	INTERCONTINENTAL GROUP HOLDINGS LTD. 及びその子会社10社の株式を取得。(現 連結子会社)
平成17年12月	㈱角川モバイルを設立。(現 連結子会社)
平成18年3月	連結子会社角川映画㈱及び㈱角川ヘラルド・ピクチャーズが合併。
平成18年4月	連結子会社㈱角川書店の会社分割により、㈱角川クロスメディア及び㈱角川ザテレビジョンを設立。
平成18年7月	商号を㈱角川グループホールディングスに変更。
平成19年1月	連結子会社㈱角川書店(商号を㈱角川グループパブリッシングに変更)の会社分割により、㈱角川書店を設立。(現 連結子会社)
平成20年4月	連結子会社㈱メディアワークス及び㈱アスキーが合併し、商号を㈱アスキー・メディアワークスに変更。
平成21年4月	㈱中経出版の株式を取得。(現 連結子会社)
平成22年10月	連結子会社㈱エンターブレイン及び㈱メディアリーヴスが合併。
平成23年1月	連結子会社㈱角川書店及び角川映画㈱が合併。
平成23年1月	連結子会社㈱角川マーケティング及び㈱角川・エス・エス・コミュニケーションズが合併。
平成23年11月	㈱メディアファクトリーの株式を取得。(現 連結子会社)

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社48社及び関連会社13社により構成されており、出版物、映像等のコンテンツの開発、制作、仕入、販売及びその付帯業務を営んでおり、出版を基盤に映像やネット・デジタル領域等に事業を拡大させ、コンテンツ価値の最大化を目指しております。

当社グループの事業における当社及び関係会社の位置づけは、以下のとおりであります。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

当社は、グループ全体を管理・統括する持株会社であります。

㈱角川書店は、出版物の編集・製作、映画の制作・配給、DVD・Blu-rayパッケージの制作・販売、アニメ作品の制作・販売、スタジオ運営、ゲームソフトの開発・制作を行っております。

㈱アスキー・メディアワークス、㈱エンターブレインは出版物の編集・製作、アニメ作品やゲームソフトの制作、webサイトや携帯電話での情報配信と連動した広告事業、eコマース事業を行っております。

㈱富士見書房は、出版物の編集・製作を行っております。

㈱角川マガジンは、情報誌やムックの編集・製作と同媒体での広告事業、webサイトや携帯電話での情報配信と広告事業、eコマース事業を行っております。

㈱角川グループパブリッシングは、上記関係会社その他の出版社が発行する出版物（グループ内出版社及びグループ外出版社が編集、製作する出版物の両方をいう）を仕入れて販売しております。

㈱ビルディング・ブックセンターは、出版物の製本、物流関連管理業務や不動産の賃貸及び管理業務を行っております。

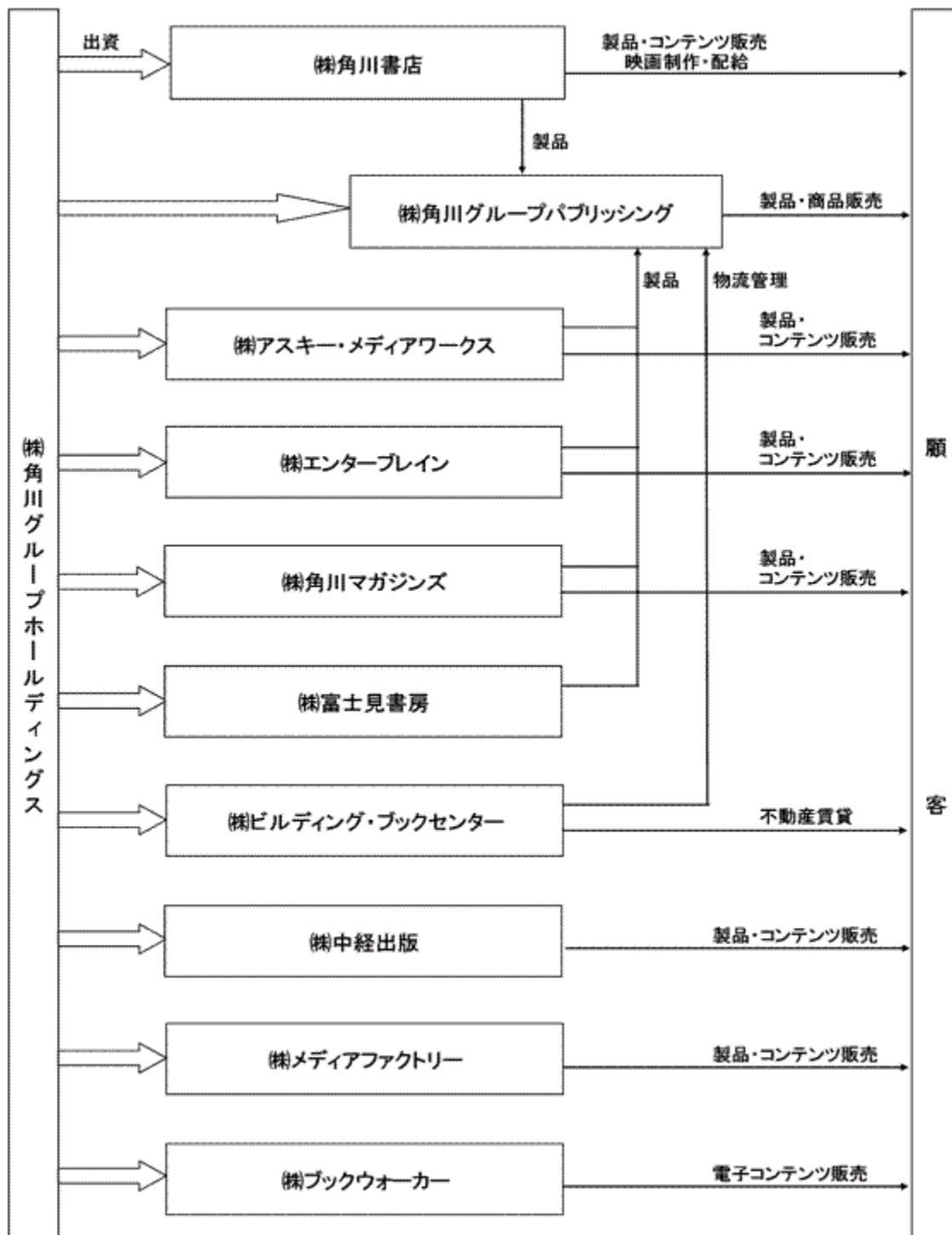
㈱中経出版は、出版物の編集・製作及び販売を行っております。

㈱メディアファクトリーは、出版物の編集・製作、映画の制作、DVD・Blu-rayパッケージの制作、アニメ作品の制作及びこれらの販売を行っております。

㈱角川ゲームスは、オリジナルゲームの開発・制作・販売と関係会社からゲームソフトを仕入れて販売しております。

㈱ブックウォーカーは、電子書籍、映像等のデジタルコンテンツを制作し、webサイト及びモバイルサイトで販売を行っております。

以上について、当社及び主要な関係会社との関係を事業系統図によって図示すると次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員 の 兼任	資金 援助	営業上 の 取引	設備 の 賃貸借
(株)角川グループパブリッシング 注5	東京都 千代田区	100	書籍 雑誌・広告	100.0	あり	あり	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)角川書店 注1・5	東京都 千代田区	100	書籍 雑誌・広告 映像 ネット・デジタル	100.0	あり	あり	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)角川マガジズ	東京都 千代田区	100	書籍 雑誌・広告 ネット・デジタル	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	—
(株)アスキー・メディアワークス 注1	東京都 千代田区	493	書籍 雑誌・広告 ネット・デジタル	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)富士見書房	東京都 千代田区	250	書籍 雑誌・広告	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)ビルディング・ブックセンター	埼玉県入間 郡三芳町	320	書籍	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)エンターブレイン	東京都 千代田区	100	書籍 雑誌・広告 ネット・デジタル	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	—
(株)ブックウォーカー	東京都 千代田区	100	ネット・デジタル	100.0	あり	あり	経営指導	建物の 賃貸
(株)角川ゲームス	東京都 千代田区	125	ネット・デジタル	100.0	あり	あり	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)中経出版	東京都 千代田区	40	書籍	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	—
(株)メディアファクトリー 注5	東京都 渋谷区	100	書籍 雑誌・広告 映像 ネット・デジタル	100.0	あり	—	経営指導 資金の預り	—
(株)エイティーエックス	東京都 千代田区	5	その他	100.0	あり	あり	システム開 発委託 資金の預り	—
(株)角川アスキー総合研究所	東京都 文京区	25	その他	100.0	あり	—	—	—
KADOKAWA HOLDINGS U. S. INC.	米国	0 (百万米ドル)	その他	100.0	あり	—	管理業務の 受託	—
KADOKAWA HOLDINGS CHINA LTD. 注1・3	香港	206 (百万香港ドル)	その他	100.0	あり	—	—	—
KADOKAWA HOLDINGS U. S. IN HONG KONG LTD.	香港	10 (百万米ドル)	その他	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
KADOKAWA INTERCONTINENTAL PUBLISHING (ASIA) LTD.	香港	28 (百万香港ドル)	書籍 雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
KADOKAWA PICTURES AMERICA, INC.	米国	0 (百万米ドル)	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
(株)角川メディアハウス	東京都 千代田区	80	雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	あり	経営指導	建物の 賃貸
(株)角川学芸出版	東京都 千代田区	100	書籍 雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	あり	経営指導	—
(株)角川デジックス	東京都 文京区	85	ネット・デジタル	100.0 [100.0]	あり	—	経営指導 資金の預り	—
(株)e bクリエイティブ	東京都 千代田区	40	その他	100.0 [100.0]	—	—	経営指導	—
グロービジョン(株)	東京都 新宿区	30	映像	100.0 [100.0]	あり	あり	経営指導 資金の預り	—
日本映画ファン(株)	東京都 千代田区	10	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
(株)エンジェル・シネマ	東京都 千代田区	10	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
(株)新人物往来社	東京都 千代田区	20	書籍 雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	あり	経営指導	—
(株)ムービータイム	東京都 千代田区	70	雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	—	経営指導	—
(株)角川ブックナビ	東京都 千代田区	15	書籍	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
(株)角川エディトリアル	東京都 千代田区	50	その他	100.0 [100.0]	あり	—	経営指導	建物の 賃貸
(株)角川プロダクション	東京都 千代田区	100	書籍	100.0 [50.0]	あり	—	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員 の 兼任	資金 援助	営業上 の 取引	設備 の 賃貸借
台湾國際角川書店股份有限公司	中華民國 台北市	158 (百万台湾ドル)	書籍 雑誌・広告	85.1 [85.1]	あり	—	—	—
(株)キャラアニ	東京都 千代田区	465	ネット・デジタル	69.7 [69.7]	あり	あり	経営指導 資金の預り	建物の 賃貸
(株)スマイルエッジ	東京都 千代田区	99	雑誌・広告	60.0	あり	—	—	—
(株)ムビチケ	東京都 港区	206	ネット・デジタル	54.1 [54.1]	あり	—	—	—
(株)K. Sense	東京都 千代田区	100	雑誌・広告	51.0 [51.0]	あり	—	資金の預り	—
KADOKAWA INTERCONTINENTAL GROUP HOLDINGS LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	その他	70.0 [70.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL FILM DISTRIBUTORS (H. K.) LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL VIDEO LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
MULTIPLEX CINEMA LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	映像	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL INTERACTIVE LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	その他	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
LAURO GAME ENTERTAINMENT LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	ネット・デジタル	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL CONSUMER PRODUCTS LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	ネット・デジタル	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	ネット・デジタル	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
PERFECT ADVERTISING & PRODUCTION COMPANY LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	雑誌・広告	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
JESU INTERNATIONAL ENTERTAINMENT LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	その他	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
INTERCONTINENTAL DEVELOPMENT AND SERVICES LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	その他	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
KADOKAWA INTERCONTINENTAL PUBLISHING LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	その他	100.0 [100.0]	あり	—	—	—
洲立影藝(深圳)有限公司	中華人民 共和国	10 (百万中国元)	映像	100.0 [100.0]	—	—	—	—

(注) 1. 特定子会社に該当しております。

2. 議決権の所有割合の[ ]内は、間接所有割合で内数となっております。

3. 平成25年1月3日付で、KADOKAWA HOLDINGS CHINA LTD. はKADOKAWA HOLDINGS ASIA LTD. に商号変更しております。

4. 前連結会計年度まで連結子会社であった角川シネプレックス(株)については、当連結会計年度においてその株式を売却したため、(有)あすか企画については、当連結会計年度において清算したため、それぞれ連結の範囲から除外しております。前連結会計年度まで連結子会社であった角川出版販売(株)は、連結子会社(株)角川グループパブリッシングと合併しております。

5. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が、10%を超えております。

主要な損益情報等	(株)角川グループパブリッシング	①売上高	67,693百万円
		②経常利益	619百万円
		③当期純利益	940百万円
		④純資産額	9,673百万円
		⑤総資産額	33,786百万円
	(株)角川書店	①売上高	39,901百万円
		②経常利益	2,546百万円
		③当期純利益	1,294百万円
		④純資産額	12,282百万円
		⑤総資産額	24,677百万円
	(株)メディアファクトリー	①売上高	18,123百万円
		②経常利益	1,007百万円
		③当期純利益	600百万円
		④純資産額	8,251百万円
		⑤総資産額	12,765百万円

## (2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な 事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	資金 援助	営業上の 取引	設備の 賃貸借
(株)プロダクション・エース	東京都 渋谷区	70	その他	50.0 [50.0]	あり	—	—	—
広州天聞角川動漫有限公司	中華人民 共和国	30 (百万人民元)	書籍	49.0 [49.0]	あり	—	—	—
(株)ティー・ゲート	東京都 千代田区	400	その他	45.0 [45.0]	あり	—	—	—
SUN WAH KADOKAWA (HONG KONG) GROUP LTD.	香港	100 (百万香港ドル)	映像	45.0 [45.0]	あり	—	—	—
(株)ドコモ・アニメストア	東京都 千代田区	1,000	ネット・デジタル	40.0 [40.0]	あり	—	—	—
安利美特股份有限公司	中華民国 台北市	18 (百万台湾ドル)	ネット・デジタル	33.0 [33.0]	あり	—	—	—
CRYSTAL SHINE LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	映像	30.0 [30.0]	—	—	—	—
(株)中国物語	東京都 中央区	100	映像	27.4 [7.8]	—	—	—	—
HEMISPHERE MOTION PICTURE PARTNERS I, LLC.	米国	96 (百万米ドル)	映像	25.0 [25.0]	—	—	—	—
(株)キッズネット	東京都 港区	140	書籍	21.2 [21.2]	あり	—	—	—
FAMOUS STAR INVESTMENT LTD.	香港	0 (百万香港ドル)	映像	20.0 [20.0]	—	—	—	—
(有)空想科学研究所 注1	東京都 渋谷区	3	書籍	16.7 [16.7]	—	—	—	—
日本映画衛星放送(株) 注1	東京都 港区	333	映像	15.0 [15.0]	—	—	—	—

- (注) 1. 実質的な影響力を持っているため、関連会社としたものであります。
2. 議決権の所有割合の[ ]内は、間接所有割合で内数となっております。
3. 前連結会計年度まで持分法適用関連会社であったNTTプライム・スクウェア(株)については、当連結会計年度において影響力基準による関連会社に該当しなくなったため、RISING CAPITAL HONG KONG LTD.については、当連結会計年度において清算したため、それぞれ持分法の適用範囲から除外しております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数 (人)	2,855 (477)
----------	-------------

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。）であります。
2. 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。
4. 前連結会計年度に比べて臨時従業員数が809名減少しておりますが、その主な理由は、株式の売却に伴い角川シネプレックス(株)を連結の範囲から除外したことによるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年令 (歳)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (千円)
53	44.3	4.5	10,158

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。）であります。
2. 平均勤続年数は、平成15年4月1日を起算日としております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには角川グループ労働組合（平成25年3月31日現在、組合員数217名）、映演労連角川映画労働組合（平成25年3月31日現在、組合員数107名）、SSCユニオン（平成25年3月31日現在、組合員数43名）があります。上部団体へは、角川グループ労働組合は千代田区労働組合協議会、映演労連角川映画労働組合は映画演劇労働組合連合会、SSCユニオンは日本出版労働組合連合会にそれぞれ加盟しております。なお、労使関係は安定的に推移しており、労働組合との間に特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度（以下「当期」という。）におけるわが国経済は、欧州債務問題や円高の長期化などにより先行き不透明な状況が続いておりましたが、平成24年の年末以降、円安の急速な進行による輸出産業の回復への期待など明るい兆しも見え始めております。

こうした環境下、当社グループは出版事業を軸にしながら、その事業領域に留まらずコンテンツを多メディアへ有機的に展開する先進的な総合メディア企業への変貌を遂げるため、積極的に諸施策を推進しております。特に、Kindleストアのオープンで飛躍的な市場拡大が現実味を帯びてきた電子書籍市場に対しては、独自の配信プラットフォーム「BOOK☆WALKER」を中心にデジタルコンテンツの充実と拡販を積極的に進めております。また、出版業界の先頭に立ってE PUB3.0化にもいち早く対応し、新規電子書籍ストアへの意欲的な作品供給を行っております。

書籍関連では、シリーズ作品の拡充、メディアミックス作品の拡販、新たな読者層の開拓などを進め、一般文庫が好調を持続しております。また、(株)メディアファクトリーのグループ入りでより強固なシェアを確保したライトノベルも堅調に推移いたしました。新規作品の積極的な投入や新人作家中心のフェア企画が十分な成果を得られず返品率が上昇し利益を圧迫していたコミックスも、迅速な対応策の成果が徐々に表れ始めております。

雑誌・広告関連では、市場の縮小傾向は依然続いておりますが、徹底した固定費の削減や不採算部門の整理を進めたことで、収益力を大幅に改善することができました。また、急激な普及が続くスマートフォン向けに既存ブランドを活用した新サービスを立ち上げ、さらに平成25年3月には(株)ドワンゴとの合弁会社として(株)スマイルエッジをスタートさせ、ニコニコ動画などネット上における新たな広告ビジネスへの取り組みも始めております。

映像関連では、劇場映画「貞子3D」のヒットやアニメ作品のパッケージ販売が好調に推移し売上、利益とも増加いたしました。また洋画配給作品のコストコントロールを徹底し、シネコン事業におけるコスト削減も徹底した結果、赤字基調であった映像事業を当期は利益貢献事業へと転換させております。

ネット・デジタル関連では、出版が創出するコンテンツの展開を加速させております。特に「BOOK☆WALKER」においては、継続的なキャンペーンや新作同時発売などの施策とともに積極的な作品投入により、毎月売上高の記録更新を続けております。また、新規電子書籍ストアともいち早く交渉を行い、オープン時より他社を上回る作品数を供給してまいりました。その結果、各ストアの年間売上ベスト作品の多数を占め、電子書籍市場における大きな存在感を示すこともできました。

海外関連では、台湾における出版事業が堅調に推移し、香港でも現地映画市場の盛り上がりを実感に取り込み映像事業の業績を伸ばしました。また、海外ソフトの現地ローカライズによるゲーム事業も順調に推移し売上、利益とも前期を上回る結果となりました。

この結果、当期の連結業績は、売上高1,616億2百万円（前期比9.6%増）、営業利益79億51百万円（前期比40.6%増）、経常利益86億61百万円（前期比46.7%増）、当期純利益50億40百万円（前期比39.8%増）となりました。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

各ジャンルにおける売上貢献作品は次のとおりであります。

#### 【単行本】

「上昇思考」長友佑都、「光圀伝」沖方丁（角川書店）  
「とびだせ どうぶつの森 かんぺきガイドブック」（エンターブレイン）  
「とびだせ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド」（アスキー・メディアワークス）  
「20歳若く見えるために私が実践している100の習慣」南雲吉則（中経出版）

#### 【文庫】

「天地明察（上）（下）」沖方丁、「ロスト・シンボル（上）（中）（下）」ダン・ブラウン（角川書店）  
「ビブリア古書堂の事件手帖」三上延（アスキー・メディアワークス）

#### 【ライトノベル】

「ソードアート・オンライン」川原礫（アスキー・メディアワークス）  
「僕は友達が少ない」平坂読（メディアファクトリー）  
「ハイスクールD×D」石踏一榮（富士見書房）

#### 【コミックス】

「新世紀エヴァンゲリオン」貞本義行（角川書店）  
「テルマエ・ロマエ」ヤマザキマリ、「乙嫁語り」森薫（エンターブレイン）  
「となりの関くん」森繁拓真（メディアファクトリー）

#### 【劇場映画】

「貞子3D」「図書館戦争 革命のつばさ」「天地明察」（角川書店）

**[DVD、Blu-ray]**

「氷菓」「ストライクウィッチーズ劇場版」「メン・イン・ブラック3」(角川書店)  
 「僕は友達が少ない」「STEINS;GATE Blu-ray BOX」(メディアファクトリー)

**[ゲーム]**

PS Vita「Fate/stay night[Realta Nua]」(角川書店)  
 3DS「AKB48+Me」(エンターブレイン)  
 PS3、Xbox360「LOLLIPOP CHAINSAW」(角川ゲームス)

**(2) キャッシュ・フロー**

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益71億81百万円、減価償却費22億85百万円、売上債権の減少13億87百万円等により、103億35百万円の収入(前期は1億84百万円の支出)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券証券の取得支出28億44百万円、無形固定資産の取得支出13億53百万円等により、40億61百万円の支出(前期は140億88百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払9億5百万円等により、7億87百万円の支出(前期は5億80百万円の収入)となりました。

以上の結果、為替換算差額を含めて59億42百万円の収入となり、現金及び現金同等物の期末残高は、178億76百万円となりました。

**2【生産、受注及び販売の状況】**

**(1) 生産実績**

当社グループはコンテンツ事業のみの単一セグメントであり、当連結会計年度における生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
コンテンツ事業 (百万円)	108,146	107.5
合計 (百万円)	108,146	107.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

**(2) 商品仕入実績**

当社グループはコンテンツ事業のみの単一セグメントであり、当連結会計年度における商品仕入実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
コンテンツ事業 (百万円)	11,603	107.3
合計 (百万円)	11,603	107.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

**(3) 受注実績**

当社グループはコンテンツ事業のみの単一セグメントですが、連結子会社における映像番組制作については放送会社等からの受注に基づき制作を行っており、当連結会計年度における受注実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
コンテンツ事業	683	250.2	200	127.8
合計	683	250.2	200	127.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

**(4) 販売実績**

当社グループはコンテンツ事業のみの単一セグメントであり、当連結会計年度における販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
コンテンツ事業 (百万円)	161,602	109.6
合計 (百万円)	161,602	109.6

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
日本出版販売(株)	32,212	21.9	34,728	21.5
(株)トーハン	24,008	16.3	25,048	15.5

### 3 【対処すべき課題】

当社グループの事業領域におけるマーケット環境は、出版市場は2兆円を割りこむ厳しい環境が続く一方、電子書籍の市場が活況を呈してまいりました。劇場映画市場は、興行収入が平成23年には1,811億円まで急激に落ち込みましたが、平成24年は1,951億円まで回復いたしました。映像ソフト市場はBlu-rayへの転換が進んでおりますが、DVDの落ち込みをカバーするに至らず、全体としては減少傾向にあります。広告市場は復興需要やオリンピックの影響もあり5年ぶりに前年比で増加いたしました。通信市場に関しましては、各通信サービス会社によるWi-Fiスポット、モバイルWi-Fiの整備が進み、外出時でも高速かつ大容量通信を利用できる環境が整い、スマートフォンやタブレット端末が急速に普及しております。

このようにメディアを取り巻く環境が大きく変化する中、当社は今後注力すべき事業領域を明確にするため、平成25年4月1日付で書籍と映像を担当する「エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部」、雑誌と広告を担当する「メディア&インフォメーション事業統括本部」、「海外事業統括本部」、「IP事業統括本部」の4つの事業統括本部を設置いたしました。また、グループの取引一元化によるスケールメリット実現のために「セールスマーケティング統括本部」を、管理機能及び戦略立案機能強化のために「管理統括本部」と「経営統括本部」を設置いたしました。

これにより、意思決定の迅速化、指揮命令系統の一元化を図るとともに、これまで以上にコア事業の拡大と、スピーディーな新規事業立ち上げに取り組んでまいります。

書籍関連においては、60年以上の歴史を誇る角川文庫を中心に、単行本、新書、コミックス、ライトノベル、ゲーム攻略本など、各分野におけるナンバーワンを目指して事業を展開しております。特に当社グループの強みであるライトノベルの分野において、引き続き市場での高いシェアを維持・拡大するとともに、コミックス分野でもオリジナルコンテンツのさらなる拡充を目指してまいります。

映像関連においては、出版事業から生み出される豊富なグループIPの映像化、実写映画及びアニメ作品の製作、配給に注力しております。興行については、ユナイテッド・エンターテインメント・ホールディングス(株)と戦略的業務提携を締結するとともに、当社グループでシネコン事業を展開してきた角川シネプレックス(株)の株式を譲渡いたしました。この提携により、経営の効率化を実現するとともに、両社グループが有する経営資源を相互に活用することによって、映像事業のさらなる発展・拡大を目指してまいります。

雑誌・広告関連においては、市場が落ち込む厳しい状況にありますが、今まで培ってきたエンタメ情報、地域情報を活かしたスマートフォン向けサービスの立ち上げやSNS等との連携などにより、収益の拡大を図ってまいります。広告については、(株)ドワンゴとの合弁会社として(株)スマイルエッジをスタートさせました。同社は、当社グループが保有する豊富なブランド、コンテンツ及び編集力と(株)ドワンゴが保有する高い技術力を組み合わせて展開する新しい広告会社となります。今後は、雑誌などの紙媒体とネット、さらにイベントを融合させた広告商品を作りあげ、クライアント及びターゲットユーザーとの深いコミュニケーションを実現してまいります。

ネット・デジタル関連においては、配信プラットフォーム「BOOK☆WALKER」のアプリダウンロード数が累計で100万ダウンロードを突破するなど大きく伸張しており、今後も成長戦略の柱の一つとして注力してまいります。またKindleやkoboなど、他のプラットフォームへの外販にも注力し、電子書籍販売のシェア拡大を目指してまいります。

IP事業については、世界に通用するメガコンテンツの創出とマーチャンダイジングの強化に注力してまいります。

海外関連においては、台湾では「台北ウォーカー」やライトノベルの翻訳出版事業等が順調に業績を伸ばしているほか、香港でもライトノベルの輸入販売や、映像事業等を展開し、着実に業容を拡大しております。また、中国大陸では、湖南省の国営出版社と合弁で設立した広州天聞角川動漫有限公司が、ライトノベルの翻訳出版や中国初となる日系の月刊コミック雑誌「天漫」とライトノベル雑誌「天漫・軽小説」から生まれたコンテンツを続々と発刊し、順調に売上を伸ばしております。今後は、文芸、ビジネス書等の他ジャンルへの展開にも注力してまいります。当社は、これらアジアの子会社における事業を足がかりとして、中国大陸を含むアジア各国での事業拡大を進めてまいります。

### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

## 1. 書籍関連及び雑誌・広告関連

### (1) 経済情勢等による影響について

当社グループの書籍関連及び雑誌・広告関連においては、編集力、企画力及びマーケティング力を強化することにより、魅力ある出版コンテンツを読者に届けるべく、また認知度の高い広告媒体を顧客に提供すべく努めております。しかしながら、次の要因により、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

- ① 我が国の出版業界は引き続き縮小傾向にあります。これは、長期間のデフレ進行による消費需要の低迷、少子・高齢化に伴う消費者ニーズの変化、デジタル化及び通信のメガバンド化等によるメディアの多様化、新型古書店及びまんが喫茶といった二次流通市場の出現等の様々な要因によるものと考えられます。
- ② 出版物の点数は増加しており、読者の選択肢は広がっているものの、少量多品種の商品構成が助長される傾向にあります。また人気作家へのアプローチ、人気雑誌コンテンツに対しての新規参入も含め、他社との競争激化は今後とも増加するものと予想されます。
- ③ 出版物の刊行に際しては綿密な刊行計画を設定しておりますが、著者の執筆過程及び編集者の編集過程等における予測不能の事態の影響から、当初の刊行計画から変動が生じることがあります。また、作品の内容によっては、著者・編集者の意図と読者における認知度及び評価に乖離が生じることがあります。
- ④ 雑誌媒体を中心とする広告ビジネスにおいては、景気動向及び顧客ニーズの変動等により、顧客の広告支出が減少することがあります。

### (2) 再販制度について

当社グループが製作・販売している書籍、雑誌等の著作物は、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」（以下「独占禁止法」という）第23条の規定により、再販売価格維持契約制度（以下「再販制度」という）が認められております。

再販制度とは、一般的にはメーカーが自社の製品を販売する際に、「卸売業者がその商品を小売業者に販売する価格」「小売業者が消費者に販売する価格」を指定し、その価格（「再販売価格」という）を卸売業者、小売業者にそれぞれ遵守させる制度であります。独占禁止法は、再販制度を不正な取引方法の1つであるとして原則禁止しておりますが、著作物については再販制度が認められております。

公正取引委員会は平成13年3月23日付け「著作物再販制度の取扱いについて」において、「競争政策の観点からは同制度を廃止し、著作物の流通において競争が促進されるべき」としながらも、「同制度の廃止について国民的合意が形成されるに至っていない」と指摘しており、当面、当該再販制度が維持されることとなっております。当該制度が廃止された場合、業界全体への影響も含め、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 委託販売制度（返品条件付販売）

法的規制等には該当いたしません。再販制度と並んで出版業界における特殊な慣行として委託販売制度があります。委託販売制度とは、当社グループが取次及び書店に配本した出版物について、配本後、約定期間内に限り返品を受け入れることを条件とする販売制度であります。

当社グループではそのような返品による損失に備えるため、期末の売掛債権等を基礎として算定した返品損失見込額に対し、返品調整引当金を流動負債に計上しております。よって、返品率等の変動により、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

## 2. 映像関連

当社グループの映像関連は、主に文芸作品及びコミックスといった書籍関連と連動したメディアミックス戦略による付加価値の高い映像ソフトの企画・制作、海外作品の買付け、DVD等映像パッケージビジネス、その他権利ビジネス等の映画・映像ビジネスに関わる翻訳許諾権の販売等により構成されております。

基本的には、出版との相互連動によるコンテンツの多元的活用により収益機会を捕捉し、今後とも、魅力あるコンテンツ制作と権利ビジネスを機軸としたマーケティング力の強化により収益基盤の強化を図ってまいります。次の要因により、当社グループの経営成績に影響を受ける可能性があります。

(1) 個別コンテンツごとの内容評価に伴う業績変動のリスク

当社グループは、映像視聴者をはじめとする、消費者にとって魅力ある、獨創性と品質に優れたコンテンツの創出と提供に努めておりますが、全ての機会においてその視聴者、消費者の嗜好に合致するとは限りません。従って、作品の内容によっては、製作サイドの意図と視聴者における認知度及び評価に乖離が生じ、当社グループの経営成績が影響を受ける可能性があります。

(2) 映画・映像ビジネスの損益構造に伴うリスク

当社グループが行う映画ビジネスは、多額の製作費、MG (Minimum Guarantee) の支払が必要になり、また、劇場公開時に多額の宣伝費が発生します。当社グループは、制作費・MGについては劇場公開時から所定の基準に基づき償却を行い、宣伝費については発生時に費用処理しております。一方、収益については興行収入、DVD・Blu-rayの販売収入、テレビ放映権の許諾収入等多岐にわたり、かつ、その計上は比較的長期間にわたることになります。したがって、当社グループが負担する制作費又はMGの金額及びその劇場公開の時期によっては、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 映像使用権購入契約に関するリスク

当社グループは、映画の買付けに伴う諸映像使用権について、原権利者との間に、MG (Minimum Guarantee) 契約を締結することが通例となっております。MG契約の場合、事前に原権利者に対して最低保証金を支払うことから、契約対象作品によっては、当該最低保証金をその獲得収益で回収しきれない可能性があります。

(4) コンテンツ制作のスケジュール変更に伴うリスク

当社グループにおける映画・映像等のコンテンツ制作においては、きめ細かなスケジュール管理による計画的な制作に努めておりますが、制作現場において、天災又は監督、俳優ほかの制作スタッフに体調不良等の予測不能な事態が発生した場合には、制作スケジュールの遅延又は企画の変更が生じることが想定されます。その場合、公開スケジュール、DVD・Blu-ray販売スケジュール等が変更されることから、当社グループの経営成績に影響を受ける可能性があります。

また、同様のリスクは映画作品の買付けの際にも生じる可能性があります。

(5) 競合によるリスク

当社グループの映像コンテンツ等は、基本的に個性が強く、他社との競合によるリスクは比較的低いものと考えますが、類似作品が時期を問わずリリースされた場合、作品間での競合が生じることにより、当社グループの経営成績に影響を及ぼすことがあります。

3. ネット・デジタル関連

当社グループのネット・デジタル関連は、主にPC及びモバイル上の情報サイト及びeコマースサイトの運営、デジタルコンテンツの制作及び販売等により構成されております。近年、PCの高機能化、モバイル通信のメガバンド化が大きく伸展するなか、各種サイトのコンテンツの拡充、認知度の向上、顧客数の増加等により事業内容が拡大し、デジタルコンテンツ制作に関わる需要も増加していることから、インキュベーションの段階から脱却し、収益ビジネスとしての地歩を固めつつあります。

今後とも当社グループの重要な事業として発展させるべく努めてまいりますが、デジタル技術と通信技術のさらなる進歩、競争者の新規参入等の要因で、市場動向、価格体系等が大きく変動する可能性があること等により、当社グループの経営成績に影響を及ぼすことがあります。

また、ゲームソフトにおいては前項(4)(5)と同様のリスクがあり、当社グループの経営成績に影響を受ける可能性があります。

4. その他

(1) 知的財産権に関するリスク

当社グループが取り扱うコンテンツは著者、脚本家、翻訳家、監督、カメラマン等の著作権、著作隣接権、権利者の商標権、出版権などの様々な知的財産権が関係しております。当社グループの事業展開においては、このような知的財産権を侵害することがないように努めております。しかし、当社グループの出版、映像、デジタルコンテンツ等に関連する事業行為が、多種多様な知的財産権にどのように関連し、また、最終権利者がどのような権利を有しかつその保全策を講じているか等について、その全てを掌握して、全てのリスクを事前に回避することには困難が伴います。従いまして、当社グループの意に反し、権利者からの権利使用の差止め、権利者と第三者間での紛争に伴う当社グループへの波及などにより、当社グループの経営成績に影響を及ぼすことがあります。

## (2) 人材確保に関するリスク

当社グループが運営するコンテンツ事業においては、総じて、創造力、企画力、編集力等の高い専門性と経験が要求されることから、事業の成長にはそのような要求水準に適う優秀な人材の確保が重要な経営課題となります。そのため、当社グループにおいては、人材の育成と確保に継続的に注力しておりますが、必要な人材を確保出来ない場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼすことがあります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### ㈱角川グループパブリッシングの吸収合併

当社は平成25年1月9日開催の取締役会において、連結子会社㈱角川グループパブリッシングを吸収合併することを決議し、同年1月31日付で合併契約書を締結いたしました。この合併契約に基づき、当社は同年4月1日に㈱角川グループパブリッシングを吸収合併しております。

当該合併の概要は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 重要な後発事象」に記載のとおりであります。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たり、会計上の見積りが必要となる事項については、過去の実績や将来計画等を考慮し、「棚卸資産の評価に関する会計基準」「金融商品に関する会計基準」「固定資産の減損に係る会計基準」「退職給付に係る会計基準」「税効果会計に係る会計基準」等の会計基準に基づいて会計処理を実施しております。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

### (2) 経営成績の分析

当連結会計年度（以下「当期」という。）の売上高は、前連結会計年度（以下「前期」という。）に比べて142億9百万円増加して1,616億2百万円となりました。書籍関連では、シリーズ作品の拡充、メディアミックス作品の拡販等により一般文庫及びライトノベルが好調を持続した一方、新規作品の積極的な投入や新人作家中心のフェア企画によりコミックスの返品が増加した結果、前期比4.4%の増加となりました。雑誌・広告関連は、市場全体の縮小等により、前期比1.3%の減少となりました。映像関連では、劇場映画「貞子3D」のヒットやアニメ作品のパッケージ販売等が好調に推移し、前期比28.0%の増加となりました。ネット・デジタル関連では、出版が創出するコンテンツの展開を加速させ、特に「BOOK☆WALKER」において、継続的なキャンペーンや新作同時発売などの施策とともに積極的な作品投入等により、前期比21.9%の増加となりました。海外関連では、台湾における出版事業、香港における映像事業が堅調に推移し、前期比17.6%の増加となりました。

売上総利益は、前期に比べて49億40百万円増加して418億9百万円となり、売上総利益率は、前期に比べ0.9ポイント増加して25.9%となりました。

営業利益は、前期に比べて22億95百万円増加して79億51百万円となり、営業利益率は、前期に比べ1.1ポイント増加して4.9%となりました。

売上総利益率及び営業利益率の増加は、主に雑誌・広告関連における固定費の削減や不採算部門の整理、映像関連におけるパッケージ販売の増加、洋画作品及びシネコン事業のコスト削減の徹底化によるものであります。

経常利益は、前期に比べて27億56百万円増加して86億61百万円となり、営業外損益は、前期に比べて4億60百万円の利益増加となりました。これは主に持分法による投資利益及び受取保険金の増加によるものであります。

税金等調整前当期純利益は、前期に比べて23億45百万円増加して71億81百万円となり、特別損益は、前期に比べて4億10百万円の損失増加となりました。これは主に投資有価証券評価損及び関係会社株式売却損の増加によるものであります。

当期純利益は、前期に比べて14億36百万円増加して50億40百万円となり、1株当たり当期純利益は前期に比べて54円69銭増加して194円72銭となりました。

### (3) 財政状態の分析

当期末の資産は、期首に比べて111億47百万円増加して1,398億98百万円となりました。内訳は、流動資産832億62百万円（期首比40億26百万円増加）、固定資産566億36百万円（期首比71億21百万円増加）であります。

流動資産では、受取手形及び売掛金が10億96百万円減少したものの、利益増加により現金及び預金が59億28百万円増加しました。

固定資産では、減価償却費の計上などにより有形固定資産が16億11百万円減少したものの、㈱ドワンゴ株式の取得や保有上場株式の時価総額増加に伴い、投資有価証券が101億83百万円増加しました。

当期末の負債は、期首に比べて6億53百万円増加して523億53百万円となりました。内訳は、流動負債352億70百万円（期首比8億58百万円減少）、固定負債170億82百万円（期首比15億11百万円増加）であります。

流動負債では、預り金等のその他流動負債が11億49百万円減少しました。

固定負債では、資産除去債務等のその他固定負債が5億16百万円減少したものの、保有上場株式の時価総額増加に伴い繰延税金負債が18億45百万円増加しました。

当期末の純資産は、期首に比べて104億94百万円増加して875億45百万円となりました。内訳は、株主資本845億61百万円（期首比40億92百万円増加）、その他の包括利益累計額18億67百万円（期首比61億4百万円増加）、少数株主持分11億16百万円（期首比2億97百万円増加）であります。

株主資本では、当期純利益の計上により利益剰余金が40億92百万円増加しております。

その他の包括利益累計額では、保有上場株式の時価総額増加に伴いその他有価証券評価差額金が51億33百万円増加し、また、主に米ドルに対する円安の影響で為替換算調整勘定が9億71百万円増加しております。

自己資本比率は、期首に比べて2.6ポイント上がり、61.8%となりました。

### (4) キャッシュ・フローの状況の分析

当期のキャッシュ・フローの状況については、「第2事業の状況 1業績等の概要 (2)キャッシュ・フロー」に記載のとおりです。

また、キャッシュ・フロー関連指標の推移は、以下のとおりであります。

#### キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期	平成24年 3月期	平成25年 3月期
自己資本比率	54.2%	56.0%	59.4%	59.2%	61.8%
時価ベースの自己資本比率	42.8%	44.7%	39.3%	53.0%	47.8%
キャッシュ・フロー対有利子 負債比率	—	6.1年	2.1年	—	1.1年
インタレスト・カバレッジ・ レシオ	—	13.7倍	36.4倍	—	76.5倍

(注) 1. 各指標の算出は以下の算式を使用しております。

自己資本比率 : (自己資本) ÷ (総資産)

時価ベースの自己資本比率 : (株式時価総額) ÷ (総資産)

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : (有利子負債) ÷ (営業キャッシュ・フロー)

インタレスト・カバレッジ・レシオ : (営業キャッシュ・フロー) ÷ (利払い)

2. 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

3. 株式時価総額は、(期末株価終値) × (期末発行済株式数(自己株式控除後))により算出しております。

4. 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。

5. 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。また、利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

6. 平成21年3月期及び平成24年3月期における「キャッシュ・フロー対有利子負債比率」「インタレスト・カバレッジ・レシオ」については、営業キャッシュ・フローがマイナスのため、記載していません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資総額は、無形固定資産への投資額を含め19億56百万円であります。

主な内容は、香港における複合映画館の新設、マスタ管理システムの刷新及び配信プラットフォーム「BOOK☆WALKER」の機能追加であります。

また、前連結会計年度まで連結子会社であった角川シネプレックス(株)の株式を売却したことに伴い、同社が連結の範囲から除外され、同社保有設備が減少しております。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループの主要な設備は、次のとおりであります。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

##### (1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)				従業員数 (人)
		建物及び構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (東京都千代田区)	事務所	335 [850]	1,567 (2,550)	587 [2]	2,490 [853]	53 [—]

(注) 1. 金額は帳簿価額であり建設仮勘定は含まれておりません。

2. [ ]内は、(株)角川グループパブリッシング、(株)角川書店及び(株)富士見書房等の国内子会社に賃貸中のものであり、外数で表示しております。

3. 従業員数欄の[ ]は、臨時従業員数を外書しております。

4. 帳簿価額「その他」の中には、車両運搬具並びに工具、器具及び備品が含まれております。

5. 上記のほか、連結会社以外の会社から以下の設備を賃借しており、(株)角川グループパブリッシング、(株)角川書店及び(株)アスキー・メディアワークス等の国内子会社に賃貸しております。

事業所名 (所在地)	設備の内容	面積 (㎡)	年間賃借料 (百万円)
角川第3本社ビル (東京都千代田区)	事務所	12,631	894

##### (2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (単位: 百万円)				従業員数 (人)
			建物及び構築物	土地 (面積㎡)	その他	合計	
(株)ビルディング・ブックセンター	物流センター (埼玉県入間郡三芳町)	物流倉庫	484 [372]	573 (13,453) [1,040]	134 [34]	1,192 [1,447]	13 [42]
	製本工場 (埼玉県入間郡三芳町)	製本設備	83	110 (1,301)	82	276	36 [4]
(株)角川書店	角川大映撮影所 (東京都調布市)	スタジオ設備	3,278	2,038 (12,666)	240	5,557	57 [60]

(注) 1. 金額は帳簿価額であり建設仮勘定は含まれておりません。

2. (株)ビルディング・ブックセンターの[ ]内は、提出会社から賃借中のものであり、外数で表示しております。

3. 従業員数欄の[ ]は、臨時従業員数を外書しております。

4. 帳簿価額「その他」の中には車両運搬具並びに工具、器具及び備品が含まれております。

##### (3) 在外子会社

重要な設備はありません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画は、以下のとおりであります。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社	新本社ビル (東京都千代田区)	事務所	2,400	1,939	自己資金 借入金	平成19年 12月	未定	延床面積 約9,966㎡
グロービジョン (株)	スタジオビル (東京都千代田区)	新社屋及び スタジオ設備	1,248	—	自己資金	平成25年 9月	平成27年 3月	延床面積 1,170㎡

#### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年6月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	27,260,800	27,260,800	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は100株であり ます。
計	27,260,800	27,260,800	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

平成21年12月1日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権付社債の残高(百万円)	11,000	10,340
新株予約権の数(個)	2,200	2,068
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	4,403,522	4,139,311
新株予約権の行使時の払込金額(円)	新株予約権1個当たり 5,000,000	同左
新株予約権の行使期間	自平成22年1月4日 至平成26年12月4日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,498.00 資本組入額 1,249.00	同左
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできないものとする。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権は、転換社債型新株予約権付社債に付されたものであり、本社債からの分離譲渡はできない。	同左
代用払込みに関する事項	各本新株予約権の行使に際しては、各本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、当該本社債額面金額と同額とする。	同左
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	組織再編に係る承継会社等に、本新株予約権に代わる新たな新株予約権を交付させるものとする。詳細は、(注)3をご参照ください。	同左

(注) 1. 本新株予約権付社債は、「行使価額修正条項付新株予約権付社債券等」であり、その特質等は以下のとおりであります。

- ① 株価の下落により新株予約権の転換価額が下方修正された場合、新株予約権の目的となる株式の数が増加します。
- ② 転換価額の修正の基準及び頻度  
2. ②に記載のとおりであります。
- ③ 転換価額の下限及び新株予約権の目的となる株式の数の上限  
ア. 転換価額の下限  
1,794円  
イ. 新株予約権の目的となる株式の数の上限  
6,131,549株(平成25年3月31日現在の普通株式発行済株式数の22.5%)
- ④ 当社の決定による本新株予約権付社債の全額の繰上償還を可能とする旨の条項  
ア. 税制変更による繰上償還

日本国内において本新株予約権付社債の所持人に対し公租公課が課される一定の場合には、当社は当所持人に対して一定の追加金を支払義務があり、当支払義務が発生したこと又は発生することをDaiwa Securities SMBC Europe Limitedに了解させた場合は、本新株予約権付社債の所持人に対して30日以上60日以内の事前の通知をした上、残存する本社債の全部(一部は不可)を平成21年12月19日以降、本社債額面金額の100%に繰上償還日までの経過利息を付して、償還することができる。

イ. クリーンアップコール条項による繰上償還

当社は、下記期間における通知日の元本残高が、当初発行された本社債額面金額合計額の10%未満になった場合、本新株予約権付社債の所持人に対して30日以上60日以内の事前の通知をすることにより、平成21年12月19日以降平成26年12月17日までの期間中、残存する本社債の全部(一部は不可)を本社債額面金額の100%に繰上償還日までの経過利息を付して繰上償還することができる。

ウ. 買入消却

当社ないし当社の子会社は、スイス中央銀行の規制に従って、いつでもいかなる価額でも本新株予約権付社債を買取引受人を介して買い入れ、買い入れた本新株予約権付社債をDaiwa Securities SMBC Europe Limitedに引き渡して消却することができる。かかる場合、Daiwa Securities SMBC Europe Limitedは直ちにそれらの本新株予約権付社債を消却しなければならない。

⑤ 当社の決定による本新株予約権の全部の取得を可能とする旨の条項

該当事項はありません。

2. 転換価額の調整及び修正

転換価額は、以下の場合には、以下に記載のとおり調整又は修正されます。その結果、「新株予約権の目的となる株式の数」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が増減します。

- ① 転換価額は、本新株予約権付社債の発行後、当社が当社普通株式の時価を下回る払込金額で新たに当社普通株式を発行し又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合には、次の算式により調整される。なお、次の算式において、「既発行株式数」は当社の発行済普通株式総数(ただし、当社の保有する自己株式数を除く。)をいう。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行・処分株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行・処分株式数}}$$

また、転換価額は、当社普通株式の分割(無償割当を含む。)又は併合、当社普通株式の時価を下回る価額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されたものを含む。)の発行その他本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合にも適宜調整される。ただし、当社のストック・オプション・プランその他本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合には調整は行われぬ。

- ② 平成24年12月4日(日本時間、以下「決定日」という。)まで(同日を含む。)の15連続取引日の終値の平均値(ただし、1円未満の端数は切り上げる。)が、当該決定日において有効な転換価額を1円以上下回る場合、転換価額は、平成24年12月18日(日本時間、以下「修正日」という。)以降、上記の方法で算出された額(終値の平均値)に修正される(ただし、決定日(同日を含まない。)から修正日(同日を含む。)までの期間に上記①に従ってなされた調整に従う。)。ただし、算出の結果、当該終値の平均値が決定日に有効な転換価額の80%未満となる場合、転換価額は決定日に有効な転換価額の80%に当たる金額(ただし、1円未満の端数は切り上げる。)とする。

上記に加えて、平成25年12月18日以降、当社の選択する日(日本時間、以下「特別決定日」という。)

(同日を含む。)までの15連続取引日の終値の平均値の95%(1円未満の端数は切り上げる。)(以下「修正基準株価」という。)が、特別決定日に有効な転換価額を1円以上下回る場合、当社は、その裁量により、平成25年12月18日から平成26年6月17日において、転換価額を1株当たりの修正基準株価に下方修正することができる(ただし、特別決定日(同日を含まない。)から下記に定義される特別修正日(同日を含む。)までの期間に上記①に従ってなされた調整に従う。)。かかる修正は、特別決定日後14日目の日(以下「特別修正日」という。)に効力を生じるものとする。ただし、算出の結果、当該修正基準株価が特別決定日に有効な転換価額の80%未満となる場合、転換価額は特別決定日に有効な転換価額の80%に当たる金額(ただし、1円未満の端数は切り上げる。)とする。また、本段落の規定に従った転換価額の修正は1度しか行われぬものとする。

3. 組織再編等を行う場合の承継会社等による新株予約権の交付

- ① 当社が組織再編等を行う場合には、本新株予約権付社債が当該組織再編等効力発生日より前に償還されていない限り、当社は、承継会社等(以下に定義される。)をして、本新株予約権付社債の要項に従って、本新株予約権付社債の主債務者としての地位を引き受けさせ、かつ、本新株予約権に代わる新たな新株予約権を交付させるものとする。かかる場合、当社は、承継会社等が当該組織再編等効力発生日において日本の上場会社であるよう最善の努力をするものとする。

「承継会社等」とは、組織再編等における相手方であって、本新株予約権付社債及び/又は本新株予約権に係る当社の義務を引き受ける会社をいう。

「組織再編等効力発生日」とは、各組織再編等において予定されるその効力発生日をいう。

- ② 上記①に従って交付される承継会社等の新株予約権の内容は以下のとおりとする。
- ア. 交付される承継会社等の新株予約権の数  
当該組織再編等の効力発生日の直前において残存する本新株予約権付社債の所持人が保有する本新株予約権の数と同一の数とする。
  - イ. 承継会社等の新株予約権の目的である株式の種類及び内容  
承継会社等の普通株式とする。
  - ウ. 承継会社等の新株予約権の目的である株式の数  
当該組織再編等の条件等及び下記を勘案の上、本新株予約権付社債の要項を参照して決定する。なお、転換価額は、(注)2①及び②と同様の修正及び調整に服する。  
(ア) 合併、株式交換又は株式移転の場合には、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に得られる数の当社普通株式の保有者が当該組織再編等において受領する承継会社等の普通株式の数を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定める。当該組織再編等に際して承継会社等の普通株式以外の証券又はその他の財産が交付されるときは、当該証券又は財産の価値を承継会社等の普通株式の時価で除して得られる数に等しい承継会社等の普通株式の数を併せて受領できるようにする。  
(イ) 上記(ア)の場合以外の組織再編等の場合には、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に本新株予約権付社債の所持人が得られるのと同等の経済的利益を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定める。
  - エ. 承継会社等の新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額  
承継会社等の新株予約権の行使に際しては、各本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、本社債額面金額と同額とする。
  - オ. 承継会社等の新株予約権を行使することができる期間  
当該組織再編等の効力発生日又は上記①に基づき承継会社等の新株予約権を交付した日のいずれか遅い日から、表中の本新株予約権の行使期間の満了日までとする。
  - カ. 承継会社等の新株予約権の行使の条件  
承継会社等の新株予約権の一部行使はできないものとする。
  - キ. 承継会社等の新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
承継会社等の新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。
  - ク. 組織再編等の際の新株予約権の行使  
承継会社等について組織再編等が行われた場合にも、本新株予約権付社債と同様の取扱いを行う。
  - ケ. その他  
承継会社等の新株予約権の行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。  
承継会社等の新株予約権は承継された本社債と分離して譲渡できない。
4. 権利の行使に関する事項についての所有者との間の取決め内容  
該当事項はありません。
5. 当社株券の売買に関する事項についての所有者との間の取決め内容  
該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

	第4四半期会計期間 (平成25年1月1日から 平成25年3月31日まで)	第59期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
当該期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	—	—
当該期間の権利行使に係る交付株式数(株)	—	—
当該期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	—	—
当該期間の権利行使に係る資金調達額(百万円)	—	—
当該期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)	—	—
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	—	—
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	—	—
当該期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(百万円)	—	—

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

該当事項はありません。

## (6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	39	23	163	135	2	12,332	12,694	—
所有株式数(単元)	—	83,186	1,914	101,076	15,382	2	70,453	272,013	59,500
所有株式数の割合 (%)	—	30.58	0.70	37.16	5.66	0.00	25.90	100.00	—

- (注) 1. 自己株式1,377,474株は、「個人その他」の欄に13,774単元及び「単元未満株式の状況」の欄に74株を含めて記載しております。
2. 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ3単元及び2株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
角川 歴彦	東京都新宿区	2,056	7.54
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	1,630	5.98
株式会社バンダイナムコホールディングス	東京都品川区東品川4-5-15	1,310	4.80
財団法人角川文化振興財団	東京都千代田区富士見1-12-15	1,254	4.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,163	4.26
株式会社みずほ銀行(常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海1-8-12晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟	1,127	4.13
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	東京都千代田区永田町2-11-1	1,031	3.78
株式会社ドワンゴ	東京都中央区日本橋浜町2-31-1	730	2.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	707	2.59
マスダアンドパートナーズ株式会社	大阪府枚方市桜町9-1	702	2.57
計	—	11,712	42.96

- (注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 上記のほか、自己株式が1,377千株あります。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,377,400	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,823,900	258,239	同上
単元未満株式	普通株式 59,500	—	同上
発行済株式総数	27,260,800	—	—
総株主の議決権	—	258,239	—

- (注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

②【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社角川グループホールディングス	東京都千代田区富士見二丁目13番3号	1,377,400	—	1,377,400	5.05
計	—	1,377,400	—	1,377,400	5.05

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	68	169,150
当期間における取得自己株式	34	94,146

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (注) 1	66	134,838	264,210	660,000,000
保有自己株式数 (注) 2	1,377,474	—	1,113,298	—

(注) 1. 当事業年度の内訳は単元未満株式の売渡請求によるものであります。また、当期間は、新株予約権の権利行使であります。

2. 当期間における「保有自己株式数」には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り、売渡及び新株予約権の権利行使による株式増減は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主への利益還元を重要な経営方針のひとつとして位置付けており、持続的な成長の実現を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。配当金については、毎期の業績見通し・投資計画・手元資金の状況等を総合的に判断し、安定的かつ継続的に配当を実施するよう努めてまいります。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

当期の期末配当につきましては、上記を踏まえ、普通配当を1株につき35円、株主各位のご支援の結果、当事業年度の経常利益が8,661百万円となり、上場以来最高益となったこと、並びに今後の成長のために大規模な企業再編を行うことを記念し、株主各位への感謝の意を表すため、その記念配当として1株当たり10円、合わせて1株あたり45円の配当を実施することといたしました。

内部留保につきましては、財務体質の強化と、企業基盤の一層の強化を目的とした戦略的な投資に充当し、業績のさらなる向上に努めてまいります。

また、当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当期に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年6月22日 定時株主総会決議	1,164	45

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	2,765	2,395	2,338	2,923	2,648
最低(円)	1,369	1,811	1,515	1,739	1,851

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	2,597	2,575	2,459	2,563	2,517	2,606
最低(円)	2,265	2,426	2,255	2,300	2,323	2,375

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	会長	角川 歴彦	昭和18年9月1日生	昭和41年3月 当社入社 昭和48年9月 当社取締役 昭和50年11月 当社専務取締役 平成4年6月 当社取締役副社長 平成4年9月 当社取締役退任 平成5年10月 当社代表取締役社長 平成7年7月 (財)角川文化振興財団理事長(現任) 平成11年4月 台湾国際角川書店股份有限公司董事長 平成14年6月 当社代表取締役会長兼CEO 平成14年8月 (株)角川大映画代表取締役会長 平成15年4月 当社代表取締役社長兼CEO 平成15年4月 (株)角川書店代表取締役会長兼CEO 平成16年5月 日本映像振興(株)代表取締役社長 平成17年4月 当社代表取締役会長兼CEO 平成17年5月 KADOKAWA HOLDINGS U.S. INC. 社長 平成17年12月 (株)角川モバイル〔現(株)ブックウォーカー〕代表取締役会長 平成22年6月 当社取締役会長(現任) 平成25年2月 (株)角川アスキー総合研究所代表取締役社長(現任)	(注) 3	2,056
代表取締役	社長	佐藤 辰男	昭和27年9月18日生	昭和61年5月 (株)角川メディア・オフィス取締役 平成4年6月 同社代表取締役常務 平成4年10月 (株)メディアワークス〔現(株)アスキー・メディアワークス〕代表取締役 平成5年3月 同社代表取締役専務 平成7年6月 同社代表取締役社長 平成11年6月 当社取締役 平成12年4月 (株)トイズワークス代表取締役社長 平成15年4月 当社常務取締役 平成15年4月 (株)キャラクター・アンド・アニメ・ドット・コム〔現(株)キャラアニ〕代表取締役社長 平成16年6月 (株)メディアリーヴス代表取締役社長 平成16年6月 (株)エンターブレイン代表取締役会長 平成17年4月 (株)メディアワークス代表取締役会長 平成17年10月 (株)富士見書房代表取締役会長 平成17年12月 (株)角川モバイル〔現(株)ブックウォーカー〕代表取締役社長 平成18年2月 (株)メディアリーヴス代表取締役会長兼社長 平成18年2月 (株)アスキー代表取締役社長 平成18年6月 当社取締役 平成19年4月 (株)角川プロダクション代表取締役会長 平成20年4月 当社代表取締役社長兼COO 平成22年6月 当社代表取締役社長 平成25年4月 当社代表取締役社長IP事業統括本部長兼海外事業統括本部長(現任)	(注) 3	157

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	専務	井上 伸一郎	昭和34年1月28日生	昭和62年4月 ㈱ザテレビジョン入社 平成14年6月 当社取締役 平成15年4月 ㈱角川書店取締役 平成17年4月 同社常務取締役 平成18年3月 同社専務取締役 平成18年6月 同社代表取締役専務 平成19年1月 ㈱角川書店代表取締役社長（現任） 平成19年4月 ㈱角川プロダクション代表取締役社長 平成20年6月 当社取締役 平成22年6月 当社常務取締役 平成23年1月 ㈱角川コンテンツゲート〔現㈱ブックウォーカー〕代表取締役会長 平成24年6月 当社専務取締役 平成25年4月 当社代表取締役専務エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部長（現任）	(注) 3	18
取締役	常務	谷口 常雄	昭和31年1月6日生	平成4年9月 当社入社 平成18年3月 当社財務統括室、経理統括室統括マネジャー 平成18年6月 当社取締役人事企画室、法務・総務室統括マネジャー 平成21年4月 当社取締役人事企画室、法務・総務室、財務統括室統括マネジャー 平成21年7月 当社取締役人事企画室、法務・総務室統括マネジャー 平成24年6月 当社常務取締役人事企画室、法務・総務室統括マネジャー 平成25年4月 当社常務取締役管理統括本部長（現任）	(注) 3	10
取締役	常務	松原 眞樹	昭和28年4月11日生	平成11年4月 当社入社 平成12年6月 当社取締役新規開発事業室担当 平成13年4月 当社取締役メディア戦略事業部担当 平成14年4月 当社取締役財務・経理部長 平成16年10月 ㈱エス・エス・コミュニケーションズ代表取締役社長 平成21年7月 ㈱K. S e n s e 代表取締役社長 平成21年9月 同社代表取締役会長 平成21年10月 当社財務統括室、IR・広報室専任マネジャー 平成22年4月 当社財務統括室、IR・広報室、海外事業推進室専任マネジャー 平成22年6月 当社取締役 平成22年7月 当社取締役財務統括室、IR・広報室、海外事業推進室統括マネジャー 平成24年6月 当社常務取締役財務統括室、IR・広報室統括マネジャー 平成25年4月 当社常務取締役経営統括本部長（現任）	(注) 3	10
取締役	常務	関谷 幸一	昭和35年2月14日生	平成5年3月 当社入社 平成14年7月 ㈱角川ブックサービス取締役 平成16年7月 同社常務取締役 平成17年3月 同社代表取締役社長 平成19年1月 ㈱角川グループパブリッシング代表取締役専務 平成19年3月 同社代表取締役社長 平成21年6月 当社取締役 平成25年3月 ㈱角川ブックナビ代表取締役社長（現任） 平成25年4月 当社常務取締役セールスマーケティング統括本部長（現任）	(注) 3	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務	濱村 弘一	昭和36年2月8日生	昭和60年4月 (株)アスキー入社 平成12年3月 (株)エンターブレイン代表取締役社長 (現任) 平成14年11月 (株)メディアリーヴス代表取締役 平成15年11月 同社代表取締役社長 平成21年9月 (株)角川コンテンツゲート〔現(株)ブックウォーカー〕代表取締役社長 平成24年6月 当社取締役 平成25年4月 当社常務取締役メディア&インフォメーション事業統括本部長 (現任)	(注) 3	6
取締役		高野 潔	昭和33年9月30日生	昭和61年5月 (株)角川メディア・オフィス入社 平成4年11月 (株)メディアワークス〔現(株)アスキー・メディアワークス〕入社 平成14年6月 同社取締役 平成19年6月 (株)アスキー代表取締役社長 平成20年4月 (株)アスキー・メディアワークス代表取締役社長 平成22年4月 (株)魔法のiらんど代表取締役副会長 平成24年6月 当社取締役 平成24年6月 (株)角川コンテンツゲート〔現(株)ブックウォーカー〕代表取締役社長 平成25年4月 当社取締役管理統括本部副統括本部長 (現任)	(注) 3	20
取締役		山口 貴	昭和33年10月26日生	昭和63年6月 (株)角川メディア・オフィス入社 平成4年11月 (株)メディアワークス〔現(株)アスキー・メディアワークス〕入社 平成14年6月 同社取締役 平成17年4月 同社常務取締役 平成19年8月 当社IT統括室専任マネジャー 平成20年4月 当社経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室統括マネジャー 平成20年6月 当社取締役経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室統括マネジャー 平成21年4月 当社取締役事業推進室、経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室、経理統括室、IR・広報室統括マネジャー 平成21年7月 当社取締役事業推進室、経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室統括マネジャー 平成22年4月 当社取締役経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室統括マネジャー 平成22年7月 当社取締役経営企画室、ドメイン管理室、IT統括室、秘書室統括マネジャー 平成25年4月 当社取締役経営統括本部副統括本部長 (現任)	(注) 3	14
取締役		塚本 進	昭和31年2月19日生	昭和55年4月 (株)トーハン入社 平成11年3月 当社入社 平成21年8月 台湾国際角川書店股份有限公司董事長 (現任) 平成24年6月 当社取締役 平成24年7月 当社取締役海外事業統括室統括マネジャー 平成25年4月 当社取締役海外事業統括本部副統括本部長 (現任)	(注) 3	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		太田 修	昭和30年10月17日生	昭和57年9月 ㈱角川ザテレビジョン入社 平成11年12月 ㈱角川インタラクティブ・メディア代表取締役社長 平成18年4月 ㈱角川ザテレビジョン代表取締役専務 平成19年6月 同社代表取締役社長 平成21年9月 ㈱角川・エス・エス・コミュニケーションズ代表取締役社長 平成21年9月 ㈱角川マガジンス代表取締役社長 平成21年9月 ㈱K. S e n s e 代表取締役社長(現任) 平成23年1月 ㈱角川マーケティング〔現㈱角川マガジンス〕代表取締役副社長 平成23年4月 同社代表取締役社長(現任) 平成23年6月 当社取締役 平成25年4月 当社メディア&インフォメーション事業統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社取締役メディア&インフォメーション事業統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	10
取締役		芳原 世幸	昭和32年12月4日生	昭和55年4月 ㈱日本リクルートセンター〔現㈱リクルートホールディングス〕入社 平成11年6月 ㈱メディアファクトリー取締役 平成13年1月 同社代表取締役社長(現任) 平成25年4月 当社エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社取締役エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	1
取締役		渡辺 彰	昭和34年7月1日生	平成5年3月 当社入社 平成5年11月 税理士登録 平成18年3月 当社経理統括室長 平成22年6月 ㈱角川書店取締役 平成23年1月 日本映画ファンド㈱代表取締役社長(現任) 平成25年6月 当社取締役経営統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	4
取締役		秋山 伴道	昭和34年11月23日生	平成7年2月 ㈱メディアワークス〔現㈱アスキー・メディアワークス〕入社 平成21年1月 同社取締役(現任) 平成25年4月 当社メディア&インフォメーション事業統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社取締役メディア&インフォメーション事業統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	3
取締役		水島 真	昭和37年5月13日生	平成10年4月 当社入社 平成17年4月 ㈱角川書店経理部事業会計グループ長 平成18年7月 同社総務・人事部情報システムグループ長 平成19年1月 当社IT統括室長 平成22年6月 当社監査役 平成25年6月 当社取締役セールスマーケティング統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	1
取締役		安田 猛	昭和37年10月23日生	昭和61年1月 当社入社 平成19年1月 ㈱角川書店取締役 平成22年10月 ㈱プロダクション・エース代表取締役会長(現任) 平成24年5月 ㈱ドコモ・アニメストア代表取締役社長(現任) 平成24年6月 ㈱角川書店常務取締役(現任) 平成25年4月 当社エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社取締役エンターテインメント・コンテンツクリエイション事業統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	7

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		横沢 隆	昭和39年6月18日生	平成4年11月 ㈱メディアワークス〔現㈱アスキー・メディアワークス〕入社 平成19年1月 ㈱角川グループパブリッシング入社 平成24年6月 同社取締役 平成24年6月 角川シネプレックス㈱代表取締役社長 平成25年4月 当社セールスマーケティング統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社取締役セールスマーケティング統括本部副統括本部長(現任)	(注) 3	0
取締役	相談役	椎名 保	昭和26年9月16日生	昭和49年4月 住友商事㈱入社 平成3年7月 ㈱アスミック〔現アスミック・エース㈱〕取締役 平成12年6月 同社代表取締役社長 平成16年3月 ㈱角川エンタテインメント代表取締役社長 平成16年6月 当社取締役 平成19年3月 角川映画㈱代表取締役専務 平成21年11月 同社代表取締役社長 平成22年6月 当社取締役 平成23年1月 ㈱角川書店代表取締役専務 平成24年6月 同社取締役相談役(現任) 平成25年4月 当社海外事業統括本部海外担当 平成25年6月 当社取締役相談役海外事業統括本部海外担当(現任)	(注) 3	10
取締役		川上 量生	昭和43年9月6日生	平成3年4月 ㈱ソフトウェアジャパン入社 平成9年8月 ㈱ドワンゴ代表取締役社長 平成12年9月 同社代表取締役会長(現任) 平成18年6月 エイベックス・グループ・ホールディングス㈱取締役 平成23年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	—
取締役		船津 康次	昭和27年3月18日生	昭和56年4月 ㈱日本リクルートセンター〔現㈱リクルートホールディングス〕入社 平成10年4月 トランスコスモス㈱入社 平成10年6月 同社常務取締役 平成11年6月 同社専務取締役 平成11年12月 ㈱角川インタラクティブ・メディア取締役 平成12年4月 トランスコスモス㈱代表取締役副社長 平成14年9月 同社代表取締役社長兼CEO 平成15年6月 同社代表取締役会長兼CEO(現任) 平成17年6月 ㈱ウォーカープラス監査役 平成17年11月 ㈱キャラアニ監査役 平成18年6月 ㈱角川クロスメディア取締役 平成18年6月 ㈱角川ザテレビジョン取締役 平成20年6月 ㈱角川マーケティング〔現㈱角川マガジズ〕取締役 平成21年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	—
取締役		森泉 知行	昭和23年1月3日生	昭和45年4月 住友商事㈱入社 平成7年1月 米国住友商事会社 Phoenixcor Inc. 会長 平成8年10月 ジュピターショップチャンネル㈱代表取締役社長 平成12年2月 ㈱ジュピター・プログラミング代表取締役社長 平成12年2月 ジュピターサテライト放送㈱代表取締役社長 平成12年4月 住友商事㈱理事 平成15年3月 ㈱ジュピターテレコム代表取締役社長兼最高経営責任者 平成23年3月 住友商事㈱顧問 平成23年6月 当社取締役(現任) 平成24年5月 Hawaiian Holdings, Inc. 取締役(現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		高須 武男	昭和20年6月24日生	昭和43年4月 ㈱三和銀行入行 平成8年4月 ㈱バンダイ入社 平成8年6月 BANDAI HOLDINGS CORP. 代表取締役社長 平成9年6月 ㈱バンダイ常務取締役 平成11年3月 同社代表取締役社長 平成17年6月 同社代表取締役会長 平成17年9月 ㈱バンダイナムコホールディングス代表取締役社長 平成21年4月 同社代表取締役会長 平成24年6月 同社相談役(現任) 平成25年3月 ㈱ヘルパーク取締役(現任) 平成25年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	—
常勤 監査役		若林 陽	昭和31年9月9日生	昭和54年4月 ㈱第一勧業銀行〔現㈱みずほ銀行〕入行 平成19年11月 当社入社 法務・総務室長 平成24年6月 当社監査役(現任)	(注) 4	0
常勤 監査役		高山 康明	昭和23年10月14日生	昭和46年4月 監査法人朝日会計社〔現有限責任あずさ監査法人〕入社 昭和49年3月 公認会計士登録 昭和62年5月 同法人社員就任 平成8年5月 同法人代表社員就任 平成20年7月 当社顧問 平成21年4月 当社財務統括室長 平成21年6月 当社取締役 平成21年7月 当社取締役経理統括室、財務統括室、IR・広報室、海外事業推進室統括マネジャー 平成21年10月 当社取締役経理統括室、海外事業推進室統括マネジャー兼財務統括室、IR・広報室管掌 平成22年4月 当社取締役経理統括室統括マネジャー兼財務統括室、IR・広報室、海外事業推進室管掌 平成22年7月 当社取締役経理統括室統括マネジャー 平成25年4月 当社取締役経営統括本部副統括本部長 平成25年6月 当社監査役(現任)	(注) 5	3
監査役		渡邊 顯	昭和22年2月16日生	昭和48年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 平成元年4月 成和共同法律事務所〔現成和明哲法律事務所〕代表(現任) 平成18年6月 ジャパンパイル㈱取締役(現任) 平成18年11月 ㈱ファーストリテイリング監査役(現任) 平成19年6月 当社監査役(現任) 平成19年6月 前田建設工業㈱取締役(現任) 平成22年4月 MS&ADインシュアランスグループホールディングス㈱取締役(現任)	(注) 6	1
監査役		神谷 英一	昭和24年11月14日生	昭和48年4月 監査法人朝日会計社〔現有限責任あずさ監査法人〕入社 昭和52年3月 公認会計士登録 平成1年7月 同法人社員就任 平成10年8月 同法人代表社員就任 平成24年6月 ㈱サンウッド監査役(現任) 平成25年6月 当社監査役(現任)	(注) 7	—
計						2,355

- (注) 1. 取締役船津康次、森泉知行及び高須武男は、社外取締役であります。
2. 監査役渡邊顯及び神谷英一は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。(前任監査役の任期を引き継いでおります。)

5. 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。（前任監査役の任期を引き継いでおります。）
6. 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① 企業統治の体制

(企業統治の体制の概要及び採用する理由)

##### ア. グループの枠組み

当社グループは、様々なコンテンツを創造・提供することによって文化の向上に貢献することを社会的な使命とし、健全な事業活動を通じてその使命を果たし、グループの企業価値の最大化を目指しております。

当社グループは、主力事業である出版事業における営業部門等を有する事業持株会社である当社と当社傘下で個々の事業を担う事業子会社で構成しております。当社は、自らの事業の運営とともにグループ全体の経営戦略を決定し、事業の最適化をコントロールしつつ、各事業子会社の経営を支援・管理し、事業子会社は業務執行に必要な権限と責任を持つ体制としております。

また、当社は、監査役会設置会社ですが、さらに経営の健全性と透明性を確保するために、社外取締役制度を導入し、業務執行取締役の監督を強化しております。

##### イ. 持株会社の業務執行、監査・監督体制

取締役は、経営の健全性と透明性を確保するために複数の社外取締役を社外から招聘しております。また、経営責任の明確化と経営環境の変化への迅速な対応を図るために任期を1年としております。

取締役会は、毎月1回の定期開催と必要に応じた臨時開催により、法令で定められた事項や、経営に関する重要な事項などの意思決定及び当社の業務執行状況及び事業子会社の経営状況を監督しております。

監査役は、4名のうち2名を社外から招聘した会計又は法律の専門家で構成しており、監査の強化を図っております。

##### ウ. 事業子会社の業務執行、監査・監督体制

事業子会社は、原則として取締役会設置会社としております。

当社は、事業子会社の取締役、監査役の選任（解任）などの株主権の行使を通じて事業子会社を統治し、日常は、当社社長が主催し毎月開催するグループ社長会議（事業子会社の社長が出席）を通じて事業子会社の業務執行状況を把握、監督しております。なお、事業子会社の取締役、監査役の選任（解任）と役員報酬については、当社社長の諮問機関である監理委員会の答申を経て決定しております。

また、当社の監査役は事業子会社の監査役を兼務し、事業子会社の監査を強化しております。

#### (その他の企業統治に関する事項)

取締役会において、内部統制システムの基本方針を、下記のとおり決議しております。

##### ア. 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(ア) 当社は、法令、定款等の遵守があらゆる企業活動の前提であるとの認識のもと、当社及び当社子会社、関連会社(以下、グループ会社という)の役職員がコンプライアンスに適った企業活動を実践するため、「角川憲章」、「角川グループコンプライアンス規程」を制定し、その中で行動規範と行動基準を定める。

(イ) コンプライアンスを統括する機関として、社長を委員長とし、社外役員、監査室長等で構成する「角川グループコンプライアンス委員会」を設置し、当社及びグループ会社に対して企業倫理とコンプライアンスの徹底を図る。

(ウ) 役職員が、社内コンプライアンス上問題のある行為を知ったときは、不利益を受けることがないことを保証したうえで通報することを義務づけ、受付窓口として「コンプライアンス相談窓口」(法務・総務本部、グループ各社、顧問弁護士)を設けて、適切な対応を行う。

##### イ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

(ア) 役職員の職務執行に係る情報の保存及び管理に関し、「文書管理規程」に基づき、保存対象文書、保存期間を定め、統括本部長を文書管理責任者として、適正に保存及び管理を行う。

(イ) 取締役及び監査役から閲覧の要請があった場合には、速やかに閲覧に供するものとする。

ウ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (ア) 役職員は、職務の執行に伴うリスクの識別及び評価を通じて、職務執行に際して、社内規程に基づき付与された権限の範囲内で、個々のリスクの管理を行う。
- (イ) 監理委員会は、全社的及び組織横断的なリスクを分析・評価のうえ、適宜必要な報告を社長に行う。
- (ウ) 不測の事態が発生した場合は、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速な対応を行う。
- (エ) 監査室は、「内部監査規程」及び関連する個別規程に基づき、業務監査、会計監査、システム監査を実施し、リスク管理を含む内部統制の整備状況を検証する。

エ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (ア) 取締役会を毎月1回開催する他、適宜臨時に開催し、重要事項に関して迅速かつ確かな意思決定を行う。また、経営戦略や業務執行の重要事項を審議する会議体を設置し、定期的に開催する。
- (イ) 経営理念を機軸に毎年策定される年度計画及び中期経営計画に基づき、業績管理を行う。
- (ウ) 業務執行に際しては、「取締役会規則」、「組織・業務分掌規程」及び「職務権限規程」等の社内規程に基づき、業務分掌、決裁権限及び権限委譲を明確にし、迅速かつ効率的な意思決定を行う。

オ. 企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (ア) グループ会社における重要な意思決定のルールや、親会社への業務執行状況及び重要事項の報告の要領を定めた「グループ経営管理規程」に基づき、グループ会社各社の業務執行状況等について、取締役会で報告を受ける。
- (イ) グループ会社は、自社の特性を踏まえ、それぞれが自主的に内部統制システムを構築、運営、整備するが、各社の内部統制の状況について、親会社監査室が内部監査を実施し、その有効性と妥当性を検証する。
- (ウ) 親会社の監査役は、グループ会社の監査役を兼任する体制をとり、親会社監査役として、また同時にグループ会社監査役として、企業集団全体の業務執行を監査し、業務の適正を確保する。

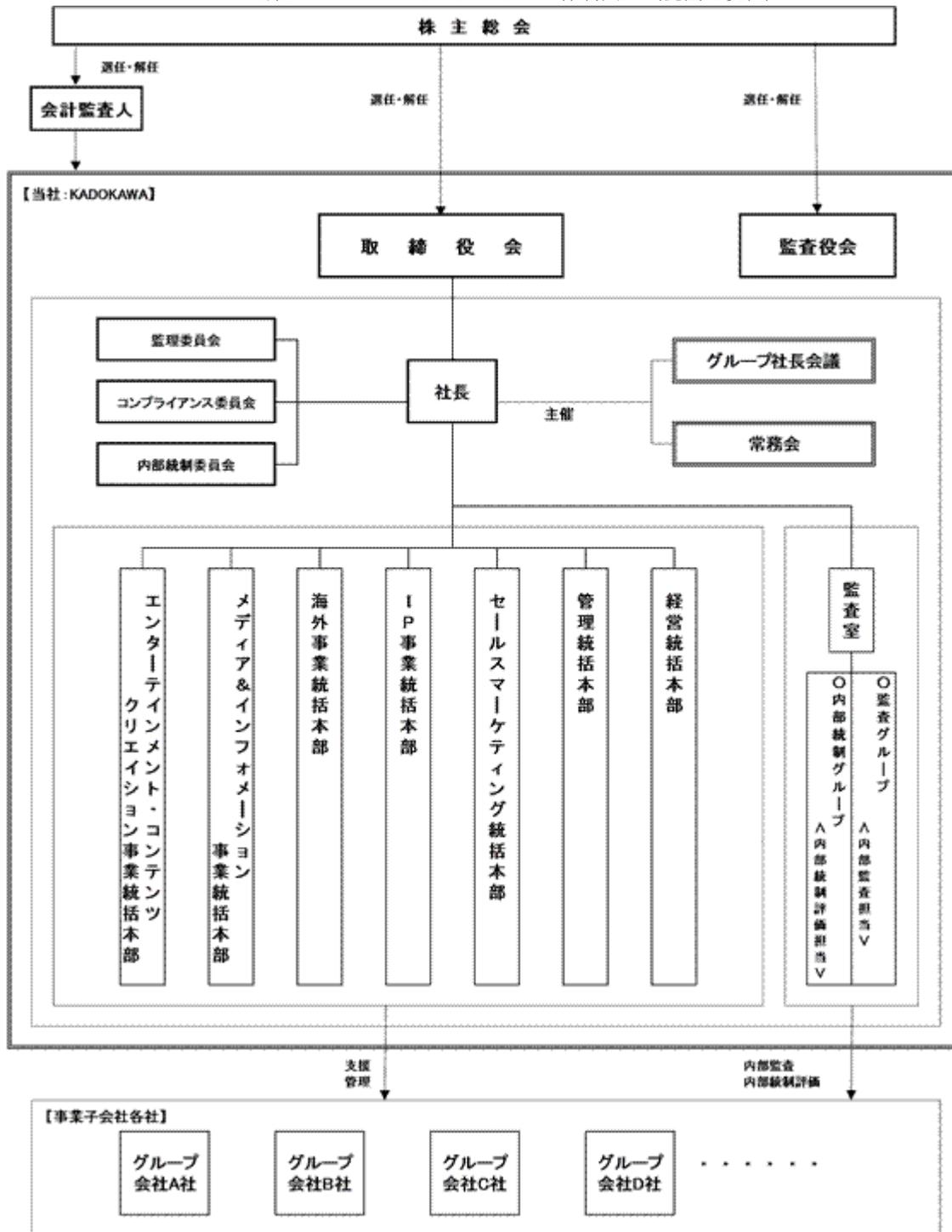
カ. 監査役を補助すべき使用人に関する事項及びその使用人の取締役からの独立性に関する事項

- (ア) 監査役会の要請に応じて、監査役を補助するためのスタッフを置くこととし、その任命、異動については、監査役会の同意を必要とするものとする。
- (イ) 監査役スタッフを置く場合は、当社の業務執行に係る役職を兼務せず、監査役の指揮命令下で職務を遂行し、その評価については監査役の意見を聴取して行う。

キ. 監査役への報告体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (ア) 取締役及び社員は、取締役会に付議する重要な案件と重要な決定事項、経営会議その他重要な会議の決定事項、内部監査の結果、「コンプライアンス相談窓口」への通報状況について、監査役会に報告、もしくは監査役の出席する会議において報告するものとする。
- (イ) 取締役及び社員は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を発見したときは、直ちに監査役に報告を行わなければならない。
- (ウ) 上記に拘らず、監査役は必要に応じ、取締役、社員に報告を求めることができる。
- (エ) 代表取締役と監査役は定期的な会合を持ち、意見交換を行う。
- (オ) 監査役は、業務の適正を確保するうえで必要な業務執行の会議に出席することができる。
- (カ) 監査役会が必要とする場合は、外部アドバイザーを活用し、監査役業務に関する助言を受けることができる。

＜当社のコーポレート・ガバナンス体制図＞（提出日現在）



② 内部監査及び監査役監査の状況

ア. 組織、人員及び手続

代表取締役社長直属の部署として、内部監査と内部統制報告制度に関する評価を担当する監査室を設けております。同室は業務執行部署から独立した8名の専任者で構成され、当社のほか連結子会社も監査の範囲としております。監査は、社内規程に準拠して実施しております。

監査役監査は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針や職務の分担を定めて実施しております。現在、監査役職務を補助する補助使用人は配置しておりませんが、内部監査を担当する監査室と連携し、監査の品質向上、効率化に取り組んでおります。なお、監査役会の要請に基づいて補助使用人を配置できることとしております。

#### イ. 内部統制部門、内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携

監査役と監査室は、定期的に会合し監査役監査の結果と監査室の内部監査の結果を相互に共有しております。また、それらは内部統制委員会等の内部統制部門に報告され、改善に取り組む事項がある場合は、同部門が改善に取り組む仕組みを構築しております。

監査役、監査室、内部統制部門は、会計監査人より定期的に監査の概要について報告を受けております。改善に取り組む事項がある場合は、報告を受けた内部統制部門が改善に取り組む仕組みを構築しております。

### ③ 社外取締役の状況

#### ア. 社外取締役選任の方針

社外取締役は、経営陣から著しいコントロールを受ける又は経営陣に対して著しいコントロールを及ぼす懸念のない方で、取締役の業務執行を監督できる会社経営経験の豊富な見識ある方、当社グループの事業戦略策定に貢献いただける方、又は専門分野を持ち当社の経営管理に貢献いただける方とすることを原則としております。また候補者の決定にあたり、独立性に関する基準又は方針はありませんが、東京証券取引所の定める独立役員 の定義を参考にしております。現在の社外取締役は3名であり、各氏とも独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

#### イ. 責任限定契約

当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結し、その限度額は法令に定める最低責任限度額と720万円のいずれか高い額としております。

#### ウ. 内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携と内部統制部門との関係

社外取締役は定期的に、内部監査の実施状況とその結果、監査役監査の結果、会計監査の結果及び内部統制部門の業務執行状況に関する報告を取締役会において受けております。

#### エ. 各社外取締役の状況

船津取締役は、トランスコスモス(株)の代表取締役会長兼CEOとして同社を経営されております。当社では、企業経営者としての豊富な経験とIT分野における専門的な知識を活かし、業務執行取締役の業務執行状況を独立した立場から監督いただいております。

森泉取締役は、(株)ジュピターテレコムの代表取締役社長兼最高経営責任者に就任されておりました。当社では、企業経営者としての豊富な経験と高い見識を当社の経営に活かし、業務執行取締役の業務執行状況を独立した立場から監督いただいております。

高須取締役は、バンダイナムコグループの代表取締役社長、会長を歴任されました。当社では、企業経営者としての豊富な経験とエンタテインメント業界における専門的な知識を当社に活かしていただくことを期待しております。

### ④ 社外監査役の状況

#### ア. 社外監査役選任の方針

社外監査役候補者を決定するにあたり、経営陣から著しいコントロールを受ける又は経営陣に対して著しいコントロールを及ぼす懸念のない方で、会計又は法律の専門家やその実務経験のある方とすることを原則としております。また候補者の決定にあたり、独立性に関する基準又は方針はありませんが、東京証券取引所の定める独立役員 の定義を参考にしております。現在の社外監査役は2名であり、両氏とも独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

#### イ. 責任限定契約

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき同法第423条第1項に定める損害賠償責任を限定する契約を締結し、その限度額は法令に定める最低責任限度額と720万円のいずれか高い額としております。

#### ウ. 内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携と内部統制部門との関係

社外監査役は定期的に、内部監査の実施状況とその結果、監査役監査の実施状況とその結果、会計監査の結果及び内部統制部門の業務執行状況に関する報告を取締役会及び監査役会において受けております。

エ. 各社外監査役の状況

渡邊監査役は、弁護士としての専門的な知識、見識を持ち、取締役の職務執行の妥当性、適法性について客観的に監査いただいております。

神谷監査役は、公認会計士としての専門的な知識、見識を持ち、長年の監査経験を活かして、監査いただくことを期待しております。

⑤ 役員報酬等

ア. 報酬等の総額及び役員の員数

当期において受け、又は受ける見込みの額が明らかとなった役員報酬については、以下のとおりであります。

役員区分	対象となる 役員の員数	報酬総額	基本報酬
取締役（社外取締役を除く）	14名	308百万円	308百万円
監査役（社外監査役を除く）	3名	30百万円	30百万円
社外役員	6名	28百万円	28百万円

(注) 取締役川上量生氏は、当期中に社外取締役ではなくなっているため、役員区分の取締役（社外取締役を除く）と社外役員のそれぞれの員数に含めております。

イ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社では、個々の役員の基本報酬の額の決定につきましては、報酬を固定的な報酬と業績連動報酬に分け、前期における営業利益率と株主資本利益率を参考値として業績連動報酬の額を増減させることとしております。また現在は、役員に対してストックオプションの発行、役員賞与の支給をしておらず、退職慰労金制度は廃止していることから、これらについての額又は算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

⑥ 株式の保有状況

ア. 保有目的が純投資目的以外の目的の投資株式

51銘柄 19,349百万円

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的の投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
第58期（前期）

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
(株)バンダイナムコホールディングス	2,853,800	3,407	当社グループと発行会社との、コンテンツ事業面での連携強化を目的として保有するもの。
(株)ドワンゴ	16,800	2,016	当社グループと発行会社との、コンテンツ事業面での連携強化を目的として保有するもの。
(株)博報堂DYホールディングス	86,000	447	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
王子製紙(株)	1,061,676	424	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
大日本印刷(株)	497,025	420	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)日本製紙グループ本社	156,222	269	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
日本紙パルプ商事(株)	737,806	219	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)テレビ東京ホールディングス	159,000	171	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
大王製紙(株)	242,668	119	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	264,180	108	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
(株)みずほフィナンシャルグループ	673,850	90	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
凸版印刷(株)	110,850	71	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)文教堂グループホールディングス	377,000	71	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)イマジカ・ロボットホールディングス	160,000	68	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	21,130	57	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
(株)WOWOW	300	53	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)東芝	100,000	36	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)ヴィア・ホールディングス	42,000	35	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
三菱製紙(株)	402,000	32	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)大和証券グループ本社	50,000	16	当社グループの主幹事証券会社として取引円滑化のために保有するもの。
(株)ブロッコリー	60,000	8	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
ダイニック(株)	50,000	8	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
エイベックス・グループ・ホールディングス(株)	6,374	6	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)アサツー ディ・ケイ	1,100	2	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	1,000	0	当社グループの取引円滑化のために保有するもの。

第59期（当期）  
特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
(株)ドワンゴ	24,963	9,460	当社グループと発行会社との、コンテンツ事業面での連携強化を目的として保有するもの。
(株)バンダイナムコホールディングス	2,853,800	4,751	当社グループと発行会社との、コンテンツ事業面での連携強化を目的として保有するもの。
(株)博報堂DYホールディングス	86,000	616	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
大日本印刷(株)	497,025	440	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
王子ホールディングス(株)	1,061,676	368	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)日本製紙グループ本社	156,222	229	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
日本紙パルプ商事(株)	737,806	221	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)テレビ東京ホールディングス	159,000	170	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	264,180	147	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
大王製紙(株)	242,668	140	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)みずほフィナンシャルグループ	673,850	134	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
(株)三井住友フィナンシャルグループ	21,130	79	当社グループの主要取引金融機関として、円滑な銀行取引を行うために保有するもの。
凸版印刷(株)	110,850	74	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)WOWOW	300	74	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)文教堂グループホールディングス	377,000	72	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)イマジカ・ロボットホールディングス	160,000	54	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)東芝	100,000	47	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
三菱製紙(株)	402,000	37	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)ヴィア・ホールディングス	42,000	35	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)大和証券グループ本社	50,000	32	当社グループの主幹事証券会社として取引円滑化のために保有するもの。
(株)ブロッコリー	60,000	23	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
エイベックス・グループ・ホールディングス(株)	6,374	16	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
ダイニック(株)	50,000	9	当社グループの出版関連の取引円滑化のために保有するもの。
(株)アサツー ディ・ケイ	1,100	2	当社グループの雑誌・広告関連の取引円滑化のために保有するもの。
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,000	0	当社グループの取引円滑化のために保有するもの。

ウ．保有目的が純投資目的の投資株式  
該当事項はありません。

⑦ 業務を執行した公認会計士

会計監査業務を行った公認会計士の氏名（所属する監査法人、継続監査年数）

水谷 英滋 （有限責任 あずさ監査法人、2年）

縄田 直治 （有限責任 あずさ監査法人、7年）

石野 研司 （有限責任 あずさ監査法人、3年）

なお、公認会計士8名、その他7名が補助者として会計監査業務に関わっております。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は25名以内とする旨定款に定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑩ 株主総会決議事項を取締役会で決議できることとした事項及びその理由

ア. 当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策の遂行を目的とするものであります。

イ. 当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を目的とするものであります。

⑪ 株主総会の特別決議要件を変更した事項及びその理由

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	80	11	83	—
連結子会社	1	—	7	—
計	81	11	90	—

(注) 監査実績時間により、精算することがあります。

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社は、前連結会計年度において監査公認会計士等に対して、(株)メディアファクトリーの買収を目的とした同社財務デュー・デリジェンスに関連する調査業務及びIFRSの導入に係る助言に関する業務についての対価を支払っております。

当連結会計年度においては、該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査報酬の決定方針としましては、監査計画、監査時間等を会計監査人と協議し、監査役会の同意を得たのち、取締役会決議により決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）の連結財務諸表及び第59期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、同機構、日本公認会計士協会、監査法人等の行う研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※2 12,245	18,174
受取手形及び売掛金	44,315	43,218
有価証券	601	—
たな卸資産	※1 14,061	※1 14,223
繰延税金資産	4,544	4,517
その他	3,578	3,219
貸倒引当金	△110	△91
流動資産合計	79,235	83,262
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※2 17,923	※2 14,622
減価償却累計額	△9,689	△7,642
建物及び構築物（純額）	8,234	6,979
工具、器具及び備品	5,121	5,016
減価償却累計額	△3,371	△3,468
工具、器具及び備品（純額）	1,749	1,547
土地	※4 10,497	※4 10,497
建設仮勘定	306	254
その他	2,035	1,996
減価償却累計額	△1,620	△1,684
その他（純額）	414	311
有形固定資産合計	21,202	19,590
無形固定資産		
のれん	892	642
その他	2,250	2,685
無形固定資産合計	3,142	3,327
投資その他の資産		
投資有価証券	※3 13,880	※3 24,064
繰延税金資産	1,946	469
その他	※2, ※3 9,608	※2, ※3 9,473
貸倒引当金	△264	△288
投資その他の資産合計	25,170	33,718
固定資産合計	49,515	56,636
資産合計	128,751	139,898

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,780	19,674
短期借入金	121	55
未払法人税等	681	961
賞与引当金	1,366	1,568
返品調整引当金	3,905	3,886
その他	10,273	9,123
流動負債合計	36,129	35,270
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	11,000
長期借入金	175	339
繰延税金負債	349	2,195
退職給付引当金	2,616	2,716
その他	1,429	831
固定負債合計	15,570	17,082
負債合計	51,700	52,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,330	26,330
資本剰余金	27,375	27,375
利益剰余金	30,695	34,787
自己株式	△3,932	△3,932
株主資本合計	80,468	84,561
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△885	4,248
土地再評価差額金	※4 △328	※4 △328
為替換算調整勘定	△3,023	△2,052
その他の包括利益累計額合計	△4,236	1,867
少数株主持分	819	1,116
純資産合計	77,050	87,545
負債純資産合計	128,751	139,898

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	147,392	161,602
売上原価	※1 110,524	※1 119,818
売上総利益	36,868	41,783
返品調整引当金戻入額	3,906	3,920
返品調整引当金繰入額	3,905	3,895
差引売上総利益	36,869	41,809
販売費及び一般管理費	※2 31,213	※2 33,857
営業利益	5,655	7,951
営業外収益		
受取利息	49	71
受取配当金	171	177
負ののれん償却額	81	81
持分法による投資利益	—	185
受取保険金	71	194
古紙売却益	162	164
その他	131	66
営業外収益合計	668	942
営業外費用		
支払利息	143	136
持分法による投資損失	231	—
為替差損	15	87
その他	28	7
営業外費用合計	419	232
経常利益	5,905	8,661
特別利益		
持分変動利益	—	120
退職給付制度改定益	19	—
災害損失引当金戻入額	309	—
その他	6	9
特別利益合計	334	130
特別損失		
固定資産除却損	※3 217	※3 249
減損損失	※4 571	—
投資有価証券評価損	476	632
関係会社株式売却損	—	579
出資金評価損	8	—
会員権評価損	21	7
特別退職金	74	133
賃貸借契約解約損	34	7
その他	0	—
特別損失合計	1,404	1,610
税金等調整前当期純利益	4,835	7,181

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
法人税、住民税及び事業税	975	1,310
法人税等調整額	139	732
法人税等合計	1,115	2,043
少数株主損益調整前当期純利益	3,720	5,138
少数株主利益	116	98
当期純利益	3,604	5,040

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	3,720	5,138
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△198	5,133
為替換算調整勘定	△520	972
持分法適用会社に対する持分相当額	△20	72
その他の包括利益合計	※1 △739	※1 6,178
包括利益	2,980	11,317
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,888	11,144
少数株主に係る包括利益	92	172

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	26,330	26,330
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	26,330	26,330
資本剰余金		
当期首残高	27,704	27,375
当期変動額		
自己株式の処分	△329	—
当期変動額合計	△329	—
当期末残高	27,375	27,375
利益剰余金		
当期首残高	27,907	30,695
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	3,604	5,040
自己株式の処分	△36	△0
持分法の適用範囲の変動	28	△41
土地再評価差額金の取崩	71	—
当期変動額合計	2,787	4,092
当期末残高	30,695	34,787
自己株式		
当期首残高	△6,014	△3,932
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	2,082	0
当期変動額合計	2,081	0
当期末残高	△3,932	△3,932
株主資本合計		
当期首残高	75,928	80,468
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	3,604	5,040
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	1,716	0
持分法の適用範囲の変動	28	△41
土地再評価差額金の取崩	71	—
当期変動額合計	4,539	4,092
当期末残高	80,468	84,561

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金		
当期首残高	△686	△885
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△198	5,133
当期変動額合計	△198	5,133
当期末残高	△885	4,248
土地再評価差額金		
当期首残高	△256	△328
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△71	—
当期変動額合計	△71	—
当期末残高	△328	△328
為替換算調整勘定		
当期首残高	△2,505	△3,023
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△517	971
当期変動額合計	△517	971
当期末残高	△3,023	△2,052
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△3,449	△4,236
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△787	6,104
当期変動額合計	△787	6,104
当期末残高	△4,236	1,867
少数株主持分		
当期首残高	671	819
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	147	297
当期変動額合計	147	297
当期末残高	819	1,116
純資産合計		
当期首残高	73,150	77,050
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	3,604	5,040
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	1,716	0
持分法の適用範囲の変動	28	△41
土地再評価差額金の取崩	71	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△639	6,401
当期変動額合計	3,899	10,494
当期末残高	77,050	87,545

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,835	7,181
減価償却費	2,107	2,285
減損損失	571	—
のれん償却額	128	196
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	127	99
受取利息及び受取配当金	△221	△249
支払利息	143	136
持分法による投資損益 (△は益)	231	△185
投資有価証券評価損益 (△は益)	476	632
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,235	1,387
たな卸資産の増減額 (△は増加)	857	△129
仕入債務の増減額 (△は減少)	△513	△123
その他	△1,606	△108
小計	1,903	11,122
利息及び配当金の受取額	250	261
利息の支払額	△144	△135
法人税等の支払額	△2,193	△913
営業活動によるキャッシュ・フロー	△184	10,335
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	△1,157	516
有価証券の取得による支出	△606	—
有価証券の売却及び償還による収入	—	600
有形固定資産の取得による支出	△3,336	△775
無形固定資産の取得による支出	△1,048	△1,353
投資有価証券の取得による支出	△3,142	△2,844
投資有価証券の売却による収入	180	35
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △4,483	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	105
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	641
出資金の払込による支出	△665	△1,358
保険積立金の解約による収入	189	476
その他	△19	△104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,088	△4,061
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△62	△50
長期借入れによる収入	250	200
長期借入金の返済による支出	△473	△84
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	1,716	0
配当金の支払額	△880	△905
その他	29	53
財務活動によるキャッシュ・フロー	580	△787

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△381	455
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14,073	5,942
現金及び現金同等物の期首残高	26,007	11,934
現金及び現金同等物の期末残高	※1 11,934	※1 17,876

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

子会社48社はすべて連結しております。連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況 (1) 連結子会社」に記載のとおりであります。

なお、(株)角川アスキー総合研究所及び(株)角川ブックナビについては、当連結会計年度において新たに設立したため、(株)スマイルエッジについては、当連結会計年度において新たに株式を取得したため、それぞれ連結の範囲に含めております。

また、前連結会計年度まで連結子会社であった角川シネプレックス(株)については、当連結会計年度においてその株式を売却したため、(有)あすか企画については、当連結会計年度において清算したため、それぞれ連結の範囲から除外しております。前連結会計年度まで連結子会社であった角川出版販売(株)は、連結子会社(株)角川グループパブリッシングと合併しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

(1) 関連会社13社はすべて持分法を適用しております。持分法適用関連会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況 (2) 持分法適用関連会社」に記載のとおりであります。

なお、(株)ドコモ・アニメストアについては、当連結会計年度において新たに設立したため、(株)中国物語については、当連結会計年度において影響力基準による関連会社に該当することとなったため、それぞれ持分法を適用しております。

また、前連結会計年度まで持分法適用関連会社であったNTTプライム・スクウェア(株)については、当連結会計年度において影響力基準による関連会社に該当しなくなったため、RISING CAPITAL HONG KONG LTD.については、当連結会計年度において清算したため、それぞれ持分法の適用範囲から除外しております。

(2) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち台湾国際角川書店股份有限公司、KADOKAWA HOLDINGS U. S. INC.、KADOKAWA HOLDINGS CHINA LTD.、KADOKAWA INTERCONTINENTAL PUBLISHING (ASIA) LTD.、KADOKAWA HOLDINGS U. S. IN HONG KONG LTD.、KADOKAWA PICTURES AMERICA, INC.並びにKADOKAWA INTERCONTINENTAL GROUP HOLDINGS LTD.及びその子会社12社の決算日は、平成24年12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。

ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、連結子会社のうち日本映画ファン(株)の決算日は、平成24年12月31日ではありますが、連結決算日の仮決算(正規の決算に準ずる合理的な手続きによる決算)に基づく財務諸表を使用しております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### イ. 有価証券

(イ) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

##### ロ. たな卸資産

(イ) 商品、製品、原材料、貯蔵品

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(ロ) 制作品、仕掛品

主として個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）

なお、制作品については、法人税法に規定する方法と同一の基準による特別な償却率により原価配分しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

連結財務諸表提出会社及び国内連結子会社は定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法

一部の在外連結子会社は定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

工具、器具及び備品 2～20年

ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

ハ. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、平成20年3月31日以前に開始した所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

ニ. 長期前払費用

定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

ハ. 返品調整引当金

一部の連結子会社は、製品の返品による損失に備えるため、連結会計年度末の売掛債権等を基礎として算定した返品損失見込額を計上しております。

ニ. 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき連結会計年度末に発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債並びに費用及び収益は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、5年間で均等償却しております。ただし、金額が僅少な場合は発生した連結会計年度の損益として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から満期日又は償還日までの期間が3ヶ月以内の短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

ロ. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めて表示しておりました「為替差損」は「営業外費用」の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた43百万円は、「為替差損」15百万円、「その他」28百万円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別利益」の「固定資産売却益」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「特別利益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「固定資産売却益」に表示していた6百万円は、「その他」として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「固定資産売却損」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「固定資産売却損」に表示していた0百万円は、「その他」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「出資金の払込による支出」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△685百万円は、「出資金の払込による支出」△665百万円、「その他」△19百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
商品及び製品(制作品を含む)	5,991百万円	5,923百万円
仕掛品	8,024	8,267
原材料及び貯蔵品	45	33
計	14,061	14,223

※2 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
現金及び預金	1百万円	－百万円
建物及び構築物	54	57
長期前払費用	78	85
計	133	143

(注) 1. 上記資産については、当座借越契約締結及び信用状開設のための担保差入であり、対応する債務はありません。

2. 長期前払費用は、「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。

※3 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,435百万円	2,242百万円
出資金	476	2,030

(注) 出資金は、「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。

※4 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日法律第34号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定した価格により算出しております。

・再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△493百万円	△547百万円
上記差額のうち賃貸等不動産に係るもの	△0	△0

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の簿価切下額が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	955百万円	512百万円

※2 販売費及び一般管理費の主な内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
荷造発送費	4,602百万円	4,588百万円
広告宣伝費	3,832	4,283
販売促進費	4,366	5,029
貸倒引当金繰入額	△34	18
役員報酬	1,766	1,755
給与手当	5,655	6,309
賞与	838	911
賞与引当金繰入額	618	612
退職給付費用	370	403
福利厚生費	1,150	1,196
のれん償却額	209	277

※3 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	117百万円	126百万円
工具、器具及び備品	49	37
有形固定資産その他	0	1
無形固定資産その他	50	83
計	217	249

※4 減損損失

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

用途	場所	種類	減損損失
遊休資産	東京都町田市	土地	71百万円
	東京都千代田区	ソフトウェア	19
	小計		91
複合映画館	千葉県千葉市	建物及び構築物	221
		その他	6
	小計		227
	茨城県つくば市	建物及び構築物	188
		その他	4
	小計		192
	その他	建物及び構築物	23
		ソフトウェア	22
		その他	13
	小計		59
合計			571

上記資産については、将来の回収可能性を検討した結果、当初予測したキャッシュ・フローが見込めないため、帳簿価額を回収可能価額まで減損しております。

グルーピングの方法は、遊休資産については個別物件単位を、複合映画館については各複合映画館をそれぞれ1資産グループとしております。

回収可能価額は、遊休資産のうち土地については正味売却価額により測定し固定資産税評価額等に基づいて算定しております。その他については使用価値により測定し割引率4.15%で算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△215百万円	7,211百万円
組替調整額	8	552
税効果調整前	△206	7,763
税効果額	8	△2,629
その他有価証券評価差額金	△198	5,133
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△520	971
組替調整額	—	1
為替換算調整勘定	△520	972
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△20	72
その他の包括利益合計	△739	6,178

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	27,260	—	—	27,260

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	2,107	0	730	1,377

(注) 1. 普通株式の増加は、単元未満株式の買取請求によるものであります。

2. 普通株式の減少は、取締役会決議に基づく第三者割当による処分であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月25日 定時株主総会	普通株式	880	35	平成23年3月31日	平成23年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月23日 定時株主総会	普通株式	905	利益剰余金	35	平成24年3月31日	平成24年6月25日

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	27,260	—	—	27,260

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	1,377	0	0	1,377

(注) 1. 普通株式の増加は、単元未満株式の買取請求によるものであります。

2. 普通株式の減少は、単元未満株式の売渡請求によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月23日 定時株主総会	普通株式	905	35	平成24年3月31日	平成24年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,164	利益剰余金	45	平成25年3月31日	平成25年6月24日

(注) 1株当たり配当額には記念配当10円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	12,245百万円	18,174百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金・定期積立金	△311	△298
現金及び現金同等物	11,934	17,876

※2 前連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに連結子会社となった会社の連結開始時の資産及び負債の主な内訳並びに当該会社株式の取得価額と取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	12,943百万円
固定資産	719
のれん	429
流動負債	△5,407
固定負債	△605
株式の取得価額	8,080
連結子会社の現金及び現金同等物	△3,596
差引:取得による支出	4,483

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

	前連結会計年度(平成24年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	1,472	532	168	772
工具、器具及び備品	66	30	32	3
有形固定資産その他	163	69	90	3
無形固定資産その他	11	6	4	0
合計	1,714	638	295	779

(単位:百万円)

	当連結会計年度(平成25年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
建物及び構築物	203	34	168	—
工具、器具及び備品	4	3	—	0
有形固定資産その他	—	—	—	—
無形固定資産その他	—	—	—	—
合計	207	38	168	0

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	91	13
1年超	919	113
合計	1,010	127
リース資産減損勘定残高	175	145

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
支払リース料	185	119
リース資産減損勘定の取崩額	80	29
減価償却費相当額	83	69
支払利息相当額	25	23

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3月31日)
1年内	763	639
1年超	2,764	1,393
合計	3,528	2,033

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業を営むための運転資金計画及び投資計画を策定しております。長期的な資金需要については、主に、社債発行や株式発行によって資金を調達しております。短期的な運転資金については、銀行借入により調達しております。

一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、各書店との間をつなぐ流通業者に対する営業債権は、当社グループの中で大きな比重を占めており、信用リスクは低いと考えられるものの、債権金額が多額であります。有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券又は発行会社との取引円滑化のために保有する株式であり、市場価格又は合理的に算定された価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

借入金及び社債は、主に設備投資や事業投資に係る資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループでは、営業債権について、連結子会社が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

満期保有目的の債券は、資金運用基準に従い、格付けの高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

② 市場リスク（金利や市場価格等の変動リスク）の管理

当社グループは、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、資金担当部門が、決裁担当者の承認を得て行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループでは、キャッシュ・マネジメント・システムを導入しており、このシステムに参加している連結子会社からの報告に基づき、当社財務統括室が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性を適切に維持することなどにより流動性リスクを管理しております。また、キャッシュ・マネジメント・システムを導入して

いない連結子会社についても、各社の資金繰りに応じ、機動的なグループ・ファイナンスを実施しております。

社債は、5年満期の転換社債型新株予約権付社債で、株式に転換されない社債部分の償還時の流動性リスクに晒されておりますが、上記のとおりの方法で手元流動性を維持していること等により、そのリスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	12,245	12,245	—
(2) 受取手形及び売掛金	44,315	44,315	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	10,365	10,068	△296
資産計	66,926	66,629	△296
(1) 支払手形及び買掛金	19,780	19,780	—
(2) 短期借入金	121	121	—
(3) 未払法人税等	681	681	—
(4) 新株予約権付社債	11,000	11,087	87
(5) 長期借入金	175	176	1
負債計	31,758	31,847	89

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	18,174	18,174	—
(2) 受取手形及び売掛金	43,218	43,218	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	19,029	18,997	△32
資産計	80,422	80,390	△32
(1) 支払手形及び買掛金	19,674	19,674	—
(2) 短期借入金	55	55	—
(3) 未払法人税等	961	961	—
(4) 新株予約権付社債	11,000	11,084	84
(5) 長期借入金	339	350	10
負債計	32,031	32,126	95

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

時価については、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

## 負債

### (1) 支払手形及び買掛金 (2) 短期借入金 (3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (4) 新株予約権付社債

時価については、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### (5) 長期借入金

時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	4,112	5,031
投資事業組合	4	3
関係会社出資金	476	2,030

これらについては、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

なお、前連結会計年度の非上場株式には関連会社株式1,435百万円が含まれており、当連結会計年度の非上場株式には関連会社株式2,242百万円が含まれております。

## 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	12,160	—	—	—
受取手形及び売掛金	44,315	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 債券その他	600	—	777	777
合計	57,075	—	777	777

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	18,144	—	—	—
受取手形及び売掛金	43,218	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 債券その他	—	865	—	865
合計	61,362	865	—	865

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	45	—	—	—	—	—
新株予約権付社債	—	—	11,000	—	—	—
長期借入金	76	50	50	50	25	—
リース債務	22	18	14	7	2	0
合計	143	68	11,064	57	27	0

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	—	—	—	—	—	—
新株予約権付社債	—	11,000	—	—	—	—
長期借入金	55	55	145	137	—	—
リース債務	17	14	7	2	0	—
合計	73	11,070	153	140	0	—

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

種類	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの 債券その他	2,156	1,859	△296

当連結会計年度（平成25年3月31日）

種類	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの 債券その他	1,731	1,698	△32

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成24年3月31日）

種類	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	3,709	2,798	911
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	4,499	6,569	△2,070
合計	8,208	9,368	△1,159

(注) 1. 非上場株式2,677百万円及び投資事業組合4百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度において、476百万円減損処理しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対		
--	-------	--	--

種類	照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	15,440	8,303	7,137
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	1,857	2,392	△535
合計	17,298	10,695	6,602

(注) 1. 非上場株式2,788百万円及び投資事業組合3百万円については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度において、632百万円減損処理しております。

### 3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	180	—	—

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	35	8	—

### (退職給付関係)

#### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度、厚生年金基金制度及び退職一時金制度を設けています。なお、当社及び一部の国内連結子会社が採用していた適格退職年金制度は、平成23年12月1日付で確定給付企業年金制度に移行しておりますが、これに伴う過去勤務債務の額は軽微であります。また、当社及び一部の国内連結子会社は、退職金制度に上積みして総合設立の厚生年金基金制度を、一部の国内連結子会社は、中小企業退職金共済制度を採用しております。さらに従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

なお、掛金拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度（総合設立の厚生年金基金制度）に関する事項は、以下のとおりであります。

#### (1) 制度全体の積立状況に関する事項

前連結会計年度（平成23年3月31日現在）

	出版厚生年金基金 (百万円)	関東IT ソフトウェア 厚生年金基金 (百万円)	日本広告業 厚生年金基金 (百万円)
年金資産の額	115,326	171,944	71,037
年金財政計算上の 給付債務の額	135,692	172,108	88,314
差引額	△20,366	△163	△17,277

当連結会計年度（平成24年3月31日現在）

	出版厚生年金基金 (百万円)	関東IT ソフトウェア 厚生年金基金 (百万円)	日本広告業 厚生年金基金 (百万円)
年金資産の額	118,360	186,189	70,319
年金財政計算上の 給付債務の額	139,466	186,648	90,787
差引額	△21,106	△458	△20,468

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合  
前連結会計年度（平成23年3月度）

出版厚生年金基金	関東 I T ソフトウェア 厚生年金基金	日本広告業 厚生年金基金
9社加入 2.87%	4社加入 1.09%	1社加入 0.29%

当連結会計年度（平成24年3月度）

出版厚生年金基金	関東 I T ソフトウェア 厚生年金基金	日本広告業 厚生年金基金
9社加入 3.14%	4社加入 1.02%	1社加入 0.29%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、以下のとおりであります。

前連結会計年度（平成23年3月度）

	出版厚生年金基金 (百万円)	関東 I T ソフトウェア 厚生年金基金 (百万円)	日本広告業 厚生年金基金 (百万円)
年金財政計算上の 過去勤務債務残高 剰余金	△17,244	—	△7,161
資産評価調整額	△3,121	3,329	△10,115
	—	△3,493	—

当連結会計年度（平成24年3月度）

	出版厚生年金基金 (百万円)	関東 I T ソフトウェア 厚生年金基金 (百万円)	日本広告業 厚生年金基金 (百万円)
年金財政計算上の 過去勤務債務残高 剰余金	△16,364	—	△6,637
資産評価調整額	△4,742	△10,082	△13,830
	—	9,623	—

なお、上記(2)の割合は、当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務	△5,049百万円	△5,390百万円
(2) 年金資産	2,410	2,554
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)	△2,638	△2,835
(4) 未認識数理計算上の差異	40	133
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)	△18	△14
(6) 退職給付引当金(3)+(4)+(5)	△2,616	△2,716

(注) 一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

### 3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)+(5)+(6)+(7)	885百万円	967百万円
(1)勤務費用	529	586
(2)利息費用	39	37
(3)期待運用収益(減算)	△11	△9
(4)数理計算上の差異の費用処理額	△1	21
(5)過去勤務債務の費用処理額	△1	△3
(6)総合設立の厚生年金基金掛金拠出額	331	330
(7)臨時に支払った割増退職金	—	5

- (注) 1. 簡便法を採用している一部の国内連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。
2. 当社及び一部の国内連結子会社は、総合設立の厚生年金基金制度への掛金拠出額を退職給付費用として処理しております。
3. 前連結会計年度において、上記退職給付費用以外に、退職給付制度改定益19百万円(特別利益)及び特別退職金74百万円(特別損失)を計上しております。また、当連結会計年度において、上記退職給付費用以外に、特別退職金133百万円(特別損失)を計上しております。

### 4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

- (1) 退職給付見込額の期間配分方法  
期間定額基準
- (2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.0~1.8%	0.6~1.5%

- (3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
0.7~1.0%	0.5~1.0%

- (4) 過去勤務債務の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。)

- (5) 数理計算上の差異の処理年数

5年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産（流動）		
たな卸資産評価減	977百万円	1,350百万円
賞与引当金	575	584
未払事業税	60	164
未払費用	452	316
繰越欠損金	2,020	1,454
その他の一時差異	525	727
繰延税金資産（流動）小計	4,612	4,598
評価性引当額	△68	△80
繰延税金資産（流動）合計	4,544	4,517
繰延税金資産（固定）		
減損損失	1,379	205
投資有価証券評価損	1,444	1,353
会員権評価損	200	203
退職給付引当金	954	993
長期未払金	173	124
固定資産に係る未実現利益	208	224
繰越欠損金	4,179	3,966
その他の一時差異	381	399
土地再評価差額	117	117
その他有価証券評価差額	415	-
繰延税金資産（固定）小計	9,455	7,586
評価性引当額	△7,012	△6,190
繰延税金資産（固定）合計	2,442	1,396
繰延税金負債（固定）		
固定資産に係る未実現損失	△650	△622
その他の一時差異	△194	△124
その他有価証券評価差額	-	△2,375
繰延税金負債（固定）合計	△845	△3,122
繰延税金資産の純額	6,141	2,791

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.69%	38.01%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.24	2.84
評価性引当額の増減	△34.41	△11.93
のれん償却額	1.08	1.04
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	11.38	-
その他	0.08	△1.51
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.06	28.45

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル及び遊休不動産等（土地を含む）を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は77百万円（賃貸収益は売上高及び営業外収益に、主な賃貸費用は売上原価に計上）、減損損失は71百万円（特別損失に計上）であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は53百万円（賃貸収益は売上高及び営業外収益に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	3,713	3,483
期中増減額	△229	578
期末残高	3,483	4,062
期末時価	2,982	3,264

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主なものは自社利用目的への用途変更による減少△193百万円であり、当連結会計年度の主なものは賃貸割合の変更による増加596百万円であります。
3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む）であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）及び

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

当社グループは出版物、映像等のコンテンツの開発、制作、仕入、販売及びその付帯業務を主な事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	出版物	広告	その他	合計
外部顧客への売上高	79,626	14,863	52,902	147,392

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高
日本出版販売(株)	32,212
(株)トーハン	24,008

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連する報告セグメントの名称を記載しておりません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	出版物	DVD・ Blu-ray	その他	合計
外部顧客への売上高	81,658	16,341	63,602	161,602

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高
日本出版販売株	34,728
株トーハン	25,048

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連する報告セグメントの名称を記載しておりません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 及び

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 及び

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 及び

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	南角川インベストメント	東京都新宿区	553	不動産の賃貸・管理	(被所有) 直接 2.3	不動産の賃貸借 匿名組合への共同出資 役員の兼任	賃借料の支払	59	—	—
							賃借料の受取	13	—	—
							不動産の購入	443	—	—
							匿名組合損益の精算	78	流動負債 その他	273
	株ボルケ	東京都目黒区	15	映像の制作・販売	—	商品・製品の販売	商品・製品の販売	45	売掛金	5

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 不動産の賃貸借については、近隣相場を基に決定しております。
  - (2) 不動産の購入については、不動産鑑定士の鑑定額を基に決定しております。
  - (3) 匿名組合損益については、匿名組合への出資比率により決定しております。
  - (4) 商品・製品の販売については、一般の取引条件と同様に決定しております。
2. 取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	角川インベストメント	東京都新宿区	553	不動産の賃貸・管理	(被所有) 直接 2.3	資金の借入 匿名組合への共同出資 役員の兼任	資金の借入	70	長期借入金	70
							匿名組合損益の精算	28	流動負債 その他	52
							子会社の第三者割当増資に伴う払込	100	—	—

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 資金の借入について、金利は市場金利を勘案して合理的に決定しております。
- (2) 匿名組合損益については、匿名組合への出資比率により決定しております。
- (3) 第三者割当増資については、株ムビチケが1株につき50,000円で第三者割当増資を実施したものであります。

2. 取引金額には消費税等が含まれておりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	2,945円 20銭	3,339円 17銭
1株当たり当期純利益	140円 03銭	194円 72銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	124円 18銭	171円 03銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	3,604	5,040
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,604	5,040
期中平均株式数(千株)	普通株式 25,737	普通株式 25,883
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(百万円)	79	81
(うち支払利息(税額相当額控除後))	(79)	(81)
(うち事務手数料(税額相当額控除後))	(0)	(0)
普通株式増加数(千株)	3,925	4,061
(うち転換社債型新株予約権付社債)	(3,925)	(4,061)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

㈱角川グループパブリッシングの吸収合併

当社は平成25年1月9日開催の取締役会において、連結子会社㈱角川グループパブリッシングを吸収合併することを決議し、同年1月31日付で合併契約書を締結いたしました。この合併契約に基づき、当社は同年4月1日に㈱角川グループパブリッシングを吸収合併しております。当該合併の概要は、以下のとおりであります。

なお、㈱角川グループパブリッシングは当社の100%連結子会社であるため、当該合併による連結業績への影響はありません。

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

㈱角川グループパブリッシング  
出版物の販売

(2) 企業結合日

平成25年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、㈱角川グループパブリッシングを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

㈱角川グループホールディングス

(5) 取引の目的を含む取引の概要

この合併により、グループ会社の管理・統括に加え、より主導的な立場でグループ全体のデジタル戦略の推進、営業・宣伝戦略の策定、資材調達のスケールメリット実現、適正な営業人員配置による迅速な市場対応などを遂行し、グループ全体のさらなる成長を目指してまいります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

連結子会社9社の吸収合併

当社は平成25年3月28日開催の取締役会において、同年10月1日付で連結子会社9社を吸収合併することを決議し、同年6月22日開催の当社第59期定時株主総会で承認可決されました。当該合併の概要は、以下のとおりであります。

なお、本合併は当社が発行済株式の全てを直接又は間接に保有している連結子会社9社との合併であります。

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

① ㈱角川書店

出版・編集業、ビデオコンテンツの制作、映画の制作・配給・輸入業等

② ㈱アスキー・メディアワークス

出版・編集業等

③ ㈱角川マガジズ

出版・編集業等

④ ㈱メディアファクトリー

出版・編集業、映像製品の製作・販売等

⑤ ㈱エンターブレイン

出版・編集業、映像製品の製作・販売等

⑥ ㈱中経出版

出版・編集業等

⑦ ㈱富士見書房

出版・編集業等

⑧ ㈱角川学芸出版

出版・編集業等

⑨ ㈱角川プロダクション

著作権事業等

(2) 企業結合日

平成25年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、上記連結子会社9社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

㈱KADOKAWA（平成25年6月22日付で商号を㈱角川グループホールディングスから変更）

(5) 取引の目的を含む取引の概要

この合併により、これまで各事業会社が培ってきた優れたコンテンツ創出力と個別のブランドを活かし、その価値をさらに高めていく一方、グループ各社に分散していた共通機能の集約化を進めると共に、コーポレートブランド「KADOKAWA」を強く打ち立て、国内外での事業展開の強化や世界で通用するIPを創出し、激しく変化する外部環境にスピーディーかつダイナミックに対応し、収益力とキャッシュ・フローの向上を図り、より機動的な新規事業の展開を加速させてまいります。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理することとなります。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
当社	2014年満期円貨建轉換社債型新株予約権付社債	平成21年12月18日	11,000 ( - )	11,000 ( - )	1.0	なし	平成26年12月18日

(注) 1. 括弧内の金額は、1年以内の償還予定額であり内数であります。

2. 新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

銘柄	2014年満期
発行すべき株式の内容	普通株式
新株予約権の発行価額 (円)	無償
株式の発行価格 (円)	2,498.00
発行価額の総額 (百万円)	11,000
新株予約権の行使により発行した株式の発行価額の総額 (百万円)	-
新株予約権の付与割合 (%)	100
新株予約権の行使期間	自 平成22年1月4日 至 平成26年12月4日

(注) 各本新株予約権の行使に際しては、各本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、当該本社債額面金額と同額とする。

3. 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額の総額は次のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
-	11,000	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	45	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	76	55	0.90	—
1年以内に返済予定のリース債務	22	17	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	175	339	0.91	平成26年～28年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	43	24	—	平成26年～29年
合計	361	437	—	—

- (注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。  
 3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	55	145	137	—
リース債務	14	7	2	0

4. 当社は、事業資金の機動的かつ効率的な調達を行うため、複数の取引銀行とコミットメントライン契約(極度金額160億円)を前期に引続き継続しております。当連結会計年度末における借入実行残高はありません。この契約には、連結ベースでの純資産額の一定額以上の維持及び経常利益の計上を条件とする財務制限条項があり、この条件に抵触した場合には直ちに借入金の全額を返済する義務が発生し、当社グループの財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	40,022	80,125	121,170	161,602
税金等調整前四半期(当期)純利益(百万円)	2,046	2,751	5,030	7,181
四半期(当期)純利益(百万円)	1,198	1,601	3,001	5,040
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	46.29	61.87	115.95	194.72

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	46.29	15.57	54.08	78.77

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,221	11,983
売掛金	213	192
有価証券	601	—
貯蔵品	0	—
前払費用	107	104
繰延税金資産	635	458
短期貸付金	※3 6,185	※3 3,792
未収入金	※3 2,780	※3 3,098
その他	14	14
貸倒引当金	△230	△512
流動資産合計	15,528	19,132
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,931	4,938
減価償却累計額	△3,258	△3,347
建物（純額）	1,673	1,591
構築物	150	150
減価償却累計額	△115	△118
構築物（純額）	34	31
車両運搬具	16	16
減価償却累計額	△15	△15
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	1,328	1,349
減価償却累計額	△683	△710
工具、器具及び備品（純額）	645	638
土地	※2 4,862	※2 4,862
建設仮勘定	202	202
有形固定資産合計	7,418	7,327
無形固定資産		
ソフトウェア	692	672
その他	227	671
無形固定資産合計	920	1,343
投資その他の資産		
投資有価証券	10,322	19,352
関係会社株式	※1 54,131	※1 54,057
出資金	0	0
関係会社長期貸付金	2,872	1,500
長期前払費用	0	6
繰延税金資産	306	—
長期預金	1,500	1,500
保険積立金	1,732	1,785

(単位：百万円)

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
その他	1,061	1,061
貸倒引当金	△89	△91
投資その他の資産合計	71,837	79,173
固定資産合計	80,176	87,844
資産合計	95,705	106,976
負債の部		
流動負債		
未払金	※3 1,053	※3 2,065
未払費用	187	235
未払法人税等	28	25
前受金	104	103
預り金	※3 17,914	※3 21,067
前受収益	1	1
賞与引当金	48	53
その他	2	—
流動負債合計	19,341	23,552
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	11,000
繰延税金負債	—	2,339
退職給付引当金	79	72
その他	468	303
固定負債合計	11,547	13,716
負債合計	30,888	37,268
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,330	26,330
資本剰余金		
資本準備金	27,375	27,375
資本剰余金合計	27,375	27,375
利益剰余金		
利益準備金	567	567
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	15,820	15,592
利益剰余金合計	16,388	16,159
自己株式	△3,932	△3,932
株主資本合計	66,161	65,933
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△885	4,234
土地再評価差額金	※2 △459	※2 △459
評価・換算差額等合計	△1,344	3,775
純資産合計	64,816	69,708
負債純資産合計	95,705	106,976

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業収益	※2 6,718	※2 5,719
営業費用	※1 3,889	※1 4,812
営業利益	2,829	907
営業外収益		
受取利息	4	2
有価証券利息	19	1
受取配当金	169	174
受取保険金	17	—
受取賃貸料	16	21
貸倒引当金戻入額	40	—
その他	4	5
営業外収益合計	271	204
営業外費用		
支払利息	15	21
社債利息	110	110
投資事業組合運用損	9	0
支払手数料	10	0
その他	5	7
営業外費用合計	151	139
経常利益	2,949	971
特別利益		
投資有価証券売却益	—	8
特別利益合計	—	8
特別損失		
固定資産除却損	1	0
減損損失	※3 71	—
投資有価証券評価損	462	574
関係会社株式評価損	740	288
出資金評価損	8	—
会員権評価損	18	1
特別損失合計	1,302	865
税引前当期純利益	1,647	115
法人税、住民税及び事業税	△1,047	△765
法人税等調整額	△53	203
法人税等合計	△1,100	△562
当期純利益	2,747	677

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	26,330	26,330
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	26,330	26,330
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	27,375	27,375
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	27,375	27,375
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	567	567
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	567	567
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	14,634	15,820
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	2,747	677
自己株式の処分	△367	△0
土地再評価差額金の取崩	△314	—
当期変動額合計	1,186	△228
当期末残高	15,820	15,592
利益剰余金合計		
当期首残高	15,201	16,388
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	2,747	677
自己株式の処分	△367	△0
土地再評価差額金の取崩	△314	—
当期変動額合計	1,186	△228
当期末残高	16,388	16,159
自己株式		
当期首残高	△6,016	△3,932
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	2,084	0
当期変動額合計	2,083	0
当期末残高	△3,932	△3,932

(単位：百万円)

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本合計		
当期首残高	62,891	66,161
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	2,747	677
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	1,716	0
土地再評価差額金の取崩	△314	—
当期変動額合計	3,269	△228
当期末残高	66,161	65,933
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△681	△885
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△203	5,119
当期変動額合計	△203	5,119
当期末残高	△885	4,234
土地再評価差額金		
当期首残高	△773	△459
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	314	—
当期変動額合計	314	—
当期末残高	△459	△459
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△1,455	△1,344
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	110	5,119
当期変動額合計	110	5,119
当期末残高	△1,344	3,775
純資産合計		
当期首残高	61,436	64,816
当期変動額		
剰余金の配当	△880	△905
当期純利益	2,747	677
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	1,716	0
土地再評価差額金の取崩	△314	—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	110	5,119
当期変動額合計	3,380	4,891
当期末残高	64,816	69,708

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法に基づく原価法

##### (2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法

なお、主な対応年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

工具、器具及び備品 3～20年

##### (2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

#### 3. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 投資評価引当金

市場価格のない関係会社株式等の実質価額の低下による損失に備えるため、対象となる株式の実質価額の低下額を基礎として計上しております。

##### (3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に負担すべき額を計上しております。

##### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき期末に発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。

#### 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

##### (2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前期において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「受取賃貸料」は「営業外収益」の総額の100分の10を超えたため、当期より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前期の財務諸表の組替えを行っております。この結果、前期の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた21百万円は、「受取賃貸料」16百万円、「その他」4百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

※1 投資評価引当金は以下の科目から控除して表示しております。

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
関係会社株式	2,530百万円	2,530百万円

※2 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日法律第34号）に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定した価格により算出しております。

・再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△493百万円	△547百万円
上記差額のうち賃貸等不動産に係るもの	△0	△0

※3 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは次のとおりであります。

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
短期貸付金	6,185百万円	3,792百万円
未収入金	1,804	2,305
未払金	884	1,847
預り金	17,893	21,045

(損益計算書関係)

※1 営業費用のうち主な費目及び金額は次のとおりであります。

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
貸倒引当金繰入額	△60百万円	282百万円
役員報酬	352	367
給与手当	420	420
賞与引当金繰入額	48	53
退職給付費用	44	51
業務委託料	308	384
支払手数料	184	219
地代家賃	980	1,153
修繕費	341	398
減価償却費	416	415

※2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業収益	6,718百万円	5,719百万円

※3 減損損失

第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

用途	場所	種類	減損損失
遊休資産	東京都町田市	土地	71百万円

上記資産については、将来の回収可能性を検討した結果、当初予測したキャッシュ・フローが見込めないため、帳簿価額を回収可能価額まで減損しております。

グルーピングの方法は、遊休資産については個別物件単位を1資産グループとしております。

回収可能価額は、正味売却価額により測定し、固定資産税評価額に基づいて算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	第58期首株式数 (千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	第58期末株式数 (千株)
普通株式	2,107	0	730	1,377

(注) 1. 普通株式の増加は、単元未満株式の買取請求によるものであります。

2. 普通株式の減少は、取締役会決議に基づく第三者割当による処分であります。

第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	第59期首株式数 (千株)	増加株式数 (千株)	減少株式数 (千株)	第59期末株式数 (千株)
普通株式	1,377	0	0	1,377

(注) 1. 普通株式の増加は、単元未満株式の買取請求によるものであります。

2. 普通株式の減少は、単元未満株式の売渡請求によるものであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(第58期(平成24年3月31日)の貸借対照表計上額は子会社株式54,131百万円、第59期(平成25年3月31日)の貸借対照表計上額は子会社株式54,044百万円、関連会社株式12百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
繰延税金資産 (流動)		
繰越欠損金	616百万円	430百万円
貸倒引当金	82	182
賞与引当金	18	20
未払事業税	4	4
その他の一時差異	7	16
繰延税金資産 (流動) 小計	729	654
評価性引当額	△93	△195
繰延税金資産 (流動) 合計	635	458
繰延税金資産 (固定)		
退職給付引当金	28	25
投資評価引当金	901	901
投資有価証券評価損	1,344	1,248
関係会社株式	4,834	5,757
会員権評価損	196	196
長期未払金	95	95
繰越欠損金	732	1,000
その他の一時差異	49	49
土地再評価差額	163	163
その他有価証券評価差額	413	—
繰延税金資産 (固定) 小計	8,758	9,438
評価性引当額	△8,452	△9,409
繰延税金資産 (固定) 合計	306	29
繰延税金負債 (固定)		
その他有価証券評価差額	—	△2,344
その他の一時差異	—	△25
繰延税金負債 (固定) 合計	—	△2,369
繰延税金資産 (負債) の純額	941	△1,881

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第58期 (平成24年3月31日)	第59期 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.69%	38.01%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.51	42.91
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△99.04	△1,661.79
評価性引当額の増減	△11.08	1,086.67
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.94	—
その他	△0.79	6.83
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△66.77	△487.37

## (1株当たり情報)

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	2,504円19銭	2,693円17銭
1株当たり当期純利益	106円77銭	26円18銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	95円32銭	25円35銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第58期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第59期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	2,747	677
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	2,747	677
期中平均株式数(千株)	普通株式 25,737	普通株式 25,883
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(百万円)	79	81
(うち支払利息(税額相当額控除後))	(79)	(81)
(うち事務手数料(税額相当額控除後))	(0)	(0)
普通株式増加数(千株)	3,925	4,061
(うち転換社債型新株予約権付社債)	(3,925)	(4,061)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

## (重要な後発事象)

## 榑角川グループパブリッシングの吸収合併

当社は平成25年1月9日開催の取締役会において、連結子会社榑角川グループパブリッシングを吸収合併することを決議し、同年1月31日付で合併契約書を締結いたしました。この合併契約に基づき、当社は同年4月1日に榑角川グループパブリッシングを吸収合併しており、これにより特別利益(抱合せ株式消滅差益)3,662百万円が発生しております。

当該合併の概要は、連結財務諸表における「重要な後発事象」に記載のとおりであります。

## 連結子会社9社の吸収合併

当社は平成25年3月28日開催の取締役会において、同年10月1日付で連結子会社9社を吸収合併することを決議し、同年6月22日開催の当社第59期定時株主総会で承認可決されました。

当該合併の概要は、連結財務諸表における「重要な後発事象」に記載のとおりであります。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	株式会社ドワンゴ	24,963	9,460
		株式会社バンダイナムコホールディングス	2,853,800	4,751
		株式会社紀伊國屋書店	34,800	870
		株式会社博報堂D Yホールディングス	86,000	616
		大日本印刷株式会社	497,025	440
		王子ホールディングス株式会社	1,061,676	368
		吉本興業株式会社	5,000	262
		株式会社トーハン	825,267	253
		株式会社日本製紙グループ本社	156,222	229
		日本紙パルプ商事株式会社	737,806	221
		その他41銘柄	5,092,081	1,875
		計	11,374,640	19,349

## 【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	投資事業組合出資 1 銘柄	1	3
		計	1	3

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残 高 (百万円)
有形固定資産							
建物	4,931	8	1	4,938	3,347	90	1,591
構築物	150	—	—	150	118	2	31
車両運搬具	16	—	—	16	15	0	0
工具、器具及び備品	1,328	23	2	1,349	710	29	638
土地	4,862	—	—	4,862	—	—	4,862
建設仮勘定	202	—	—	202	—	—	202
計	11,492	31	3	11,519	4,192	122	7,327
無形固定資産							
ソフトウェア	2,297	276	—	2,574	1,901	297	672
その他	227	443	—	671	—	—	671
計	2,524	720	—	3,245	1,901	297	1,343
長期前払費用	1	6	—	7	0	0	6

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	319	332	—	48	604
投資評価引当金	2,530	—	—	—	2,530
賞与引当金	48	53	48	—	53

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額その他は、個別見積額に係る戻入額であります。  
2. 投資評価引当金は、「関係会社株式」より控除して表示しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

①資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	0
預金	
普通預金	10,975
別段預金	3
振替貯金	4
定期預金	1,000
小計	11,983
合計	11,983

2) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
(株)角川書店	45
(株)角川グループパブリッシング	33
(株)角川マガジズ	24
(株)アスキー・メディアワークス	19
(株)ビルディング・ブックセンター	13
その他	56
合計	192

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
213	2,289	2,310	192	92.3	32.4

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

3) 関係会社株式

区分	金額 (百万円)
(株)エンターブレイン	8,803
KADOKAWA HOLDINGS U.S. INC.	8,392
(株)メディアファクトリー	8,080
(株)角川書店	7,875
(株)角川マガジズ	7,417
その他	13,487
合計	54,057

②負債の部

1) 預り金

区分	金額 (百万円)
(株)アスキー・メディアワークス	4,635
(株)角川マガジズ	4,351
(株)エンターブレイン	3,711
(株)メディアファクトリー	3,047
(株)中経出版	1,612
その他	3,708
合計	21,067

2) 新株予約権付社債

新株予約権付社債11,000百万円については、「1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 ⑤連結附属明細表 社債明細表」の当社欄に記載のとおりであります。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主（所有株式数100株以上）に対し、グループ会社の商品対象リストから株主が選択した商品を贈呈する。 これに加えて、1年以上の継続保有株主（所有株式数100株以上）に対し、グループ会社の雑誌対象リストから株主が選択した商品を半年分贈呈する。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下の権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1)内部統制報告書

平成24年6月26日関東財務局長に提出

#### (2)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第58期）（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）平成24年6月26日関東財務局長に提出

#### (3)四半期報告書及び確認書

第59期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）平成24年8月8日関東財務局長に提出

第59期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）平成24年11月9日関東財務局長に提出

第59期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）平成25年2月12日関東財務局長に提出

#### (4)臨時報告書

平成25年1月9日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号の3（吸収合併の決定）に基づく臨時報告書であります。

平成25年3月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）及び第7号の3（吸収合併の決定）に基づく臨時報告書であります。

平成25年3月28日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

平成25年6月24日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使結果）に基づく臨時報告書であります。

#### (5)臨時報告書の訂正報告書

平成25年1月31日関東財務局長に提出

平成25年1月9日提出の臨時報告書（吸収合併の決定）に係る訂正報告書であります。

平成25年4月26日関東財務局長に提出

平成25年3月28日提出の臨時報告書（吸収合併の決定）に係る訂正報告書であります。

平成25年5月31日関東財務局長に提出

平成25年3月28日提出の臨時報告書（吸収合併の決定）に係る訂正報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月25日

株式会社KADOKAWA  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水谷 英滋 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 縄田 直治 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石野 研司 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 強調事項

重要な後発事象に、株式会社角川グループパブリッシング他連結子会社9社の吸収合併に関する事項が記載されている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ※ 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年6月25日

株式会社KADOKAWA  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水谷 英滋 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 縄田 直治 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石野 研司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社KADOKAWA（旧会社名 株式会社角川グループホールディングス）の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 強調事項

重要な後発事象に、株式会社角川グループパブリッシング他連結子会社9社の吸収合併に関する事項が記載されている。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※ 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。